

Jazz Today®

Monthly Free Magazine

2006.09 No.29



Jesse van Ruller

Fay
Claassen

Nobuyuki
Nakajima



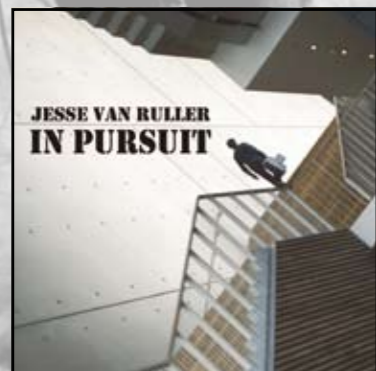
理想的なピアニストと探求したデュオ世界!

インタビュー by 成田 正



Jesse van Ruller

55 RECORDS



—ギター・トリオによる『ライヴ・アット・マーフィーズ・ロウ』に続く最新作がピアニストとのデュオになると聞いたのはじめは、嬉しいような怖いような(笑)。きっかけを教えてください。

JVR: ジェシ(以下JVR): 3、4年前、ベルツ・ヴァン・デン・プリックと初めてデュエットしたら、ひと口に言うに息がぴったり合う感じがして、それから何度かやっているとますます良くなってきて、これではクラブに出ているだけではもったいないと。

—彼は盲目だそうですが、

JVR: その代わり、ヒアリングの正確さと鋭さが人並みはずれている。消え入るようにデリケートな表現から何から何まで、僕のやることをすべて受信していて、それに対する応えを必ず返してくる。そのおかげで、お互いがきわめて近くに寄り添うデュエットになったんだ。

—この楽器編成のデュオには、ビル・エヴァンスとジム・ホールの『アンダーカレント』という金字塔があります。少しは意識しましたか?

JVR: いや、まったくなんだけれど、ビルもジムも好きなミュージシャンだよ、あのアルバムも一体何回聴いたことやら。ただ、今回は何を置いてもプリック抜きには始まらなかった。『アンダーカレント』が名盤だからでもないし、デュオという形式を前提にしたわけでもない。鍵になったのはあくまでも彼、プリックだよ。

—ギターとピアノは同じコード楽器だから交通整理が難しいとか言われますが、そんなことも関係ない?

JVR: 無神経ではいられないけど、プリックとなら関係ないと言えれば関係ない。それにね、ドラマーがいなくて、高いほうの音域に広大なスペース=空間ができるもんなんだね。普段と同じようなフレーズでも、その分だけギターのサウンドが格段にリッチになるのも気持ち良かった。そうそう、気分はほとんどサクソ奏者みたいな感じさ。シングル・トーンのラインを軸にしてプリックと語り合うわけ。

—3曲のオリジナル以外は、すべてジャズ・スタンダードですが、デュオのための特別な選曲でしたか? 中でも〈アイ・ヒア・ア・ラブソディ〉は『アンダーカレント』にも入っています。

JVR: プリックとレコーディングすることは前提にあったけど、特別というわけでもない。〈アイ・ヒア...〉も今までジャム・セッションを入れたら数え切れないほどプレイしてきたし、オリジナルについても、すべてこれまでの僕のアルバムに入っているしね。

—〈エスターテ〉をナイロン弦ギターで弾こうとは思えませんでしたか?

JVR: うん、意味は分かるよ、ラテン風味の強い曲調だからね。でも、今回は一貫したサウンド・テクスチャーを通したかった。

—最近曲の〈アムステルダム〉とかトリオやカルテットで弾いてきたオリジナルも、デュオになるとまた新味が学んだらりするでしょう?

JVR: あれはデュオでも機能することが分かって嬉しかったね。

—では最後に今後の予定は?

JVR: 色々あるけど、今のところいちばん楽しみなのは、ジム・ホールとのデュオかな。—ついでですか。こちらそれぞれそ楽しみです。いざれ話を聞かせて下さい。

JVR: OK!

探求〜デュオ / ジェシ・ヴァン・ルーラー

55 RECORDS FNCJ-5517 ¥2,500 (税込) 2006/8/23 Release

ヨーロッパ・ギター・ヒーロー、ジェシ・ヴァン・ルーラー初のギター=ピアノ=デュオ・アルバム

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 01. ヒア・カムズ・ザ・サン (Jesse van Ruller) | <パーソネル> |
| 02. エスターテ (Bruno Martino) | ジェシ・ヴァン・ルーラー (g) |
| 03. ラヴ・フォー・セール (Cole Porter) | ベルツ・ヴァン・デン・プリック (p) |
| 04. アイ・ヒア・ア・ラブソディ (Dick Gasparre) | |
| 05. ハイ・ハイアー・ハー (Jesse van Ruller) | 2006年6月1日オランダ、ハーレム、グラスランド・スタジオにて録音。 |
| 06. アムステルダム (Jesse van Ruller) | 8、9のみ2006年5月6日オランダ、アウストラ |
| 07. グッド・ベイト (Tadd Dameron/Count Basie) | リッツ、ボーフォーハウスにてライヴ録音。 |
| 08. クワイエット・ナウ (ライヴ) (Denny Zeitlin) | |
| 09. スティアルメイツ (ライヴ) (Benny Golson) | |

ヨーロッパの歌姫がやって来る!

イタリアのロバータ・ガンバリニ、オランダのフェイ・クラークがこの秋来日する。二人はこの夏、ヨーロッパのジャズ・フェスティバルで素晴らしいステージを披露した。



▲ with Hank Jones Photo by Yasuhiro Fujioka



▲ with Jan Menu Photo by Hans Speekenbrink



▲ Photo by Hans Speekenbrink

55 RECORDS

フェイ・クラーク・シングズ・チェット・ベイカー Vol.2
フェイ・クラーク
 55 RECORDS FNCJ-5516 ¥2,500 (税込) 2006/8/23 RELEASE

アムステルダムのため息。
 ウェストコースト・ジャズの代表的人気バンド、チェット・ベイカー&ジェリー・マリガン・カルテットのトランペット・パートをスキット・ヴォーカルで歌うユニークなトリビュート。

■パーソネル
 フェイ・クラーク (vo)、ヤン・メニュー (bs) カレル・ボエリー (p)、
 ハイン・ヴァン・デハイン (b, arr)、ジョン・エンゲルス (ds)

ロバータはハンク・ジョーンズ・トリオ (ジョージ・ムラーツ (b)、ウィリー・ジョーンズ3世 (ds))と一緒に6月のJVCジャズ・フェスティバル・イン・ニューヨークでサマー・ツアーをキック・オフ。

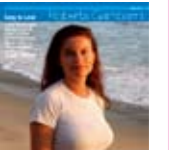
7月8、9日のイタリア、ウンブリア、14~16日のオランダ、ノース・シー、21日のフランス、ニースなどで観衆のスタンディング・オベーションを受けた。なお昨年11月に日本先行発売された「イージー・トゥ・ラヴ」はようやく世界発売され、米ダウンビート誌8月号のレビューで4つ星の高得点。恒例の第54回クリティック・ボールでも新人女性歌手部門で位に入る健闘ぶりを見せている。世界がようやく日本に追いついて来た感じがした。

一方、6月に発売された「シングズ・チェット・ベイカー Vol.1」が好評のフェイ・クラークは地元オランダ、ロッテルダムで行なわれたノース・シー・ジャズ・フェスティバルに出演。チェット・ベイカー・トリビュートのレパートリーを超満員の観衆の前で熱唱した。中でも、ジェリー・マリガン=チェット・ベイカーのサウンドをフェイのヴォーカルとヤン・メニューのバリトン・サクソで再現するステージは感動的だった。

ロバータ・ガンバリニ ウィズ・ジェイク・ハナ・トリオ

富士通コンコード・ジャズ・フェスティバル2006

- 10月27日 (金) 高崎 高崎市文化会館
- 10月29日 (日) 東京 TUC
- 10月30日 (月) 札幌 コンサートホール キタラ
- 10月31日 (火) 大阪 厚生年金会館 芸術ホール
- 11月1日 (水) 高槻 高槻市現代劇場中ホール
- 11月2日 (木) 高知 夜須町公民館 マリンホール
- 11月3日 (金) 名古屋 ブルーノート
- 11月4日 (土) 名古屋 ブルーノート
- 11月5日 (日) 東京 簡易保険ホール



10月28日 (土) 甲府 コットンクラブ
 (問) オールアート Tel.3441-1173

フェイ・クラーク「ベイカー・マリガン」BAND

【来日メンバー】

フェイ・クラーク (vo)、ヤン・メニュー (bs)、ヤン・ヴェッセルス (tp) カレル・ボエリー (p)、フランツ・ヴァン・ギーフト (b)、ジョン・エンゲルス (ds)

横濱ジャズプロムナード

10月7日 (土) 関内ホール:午後2時半
 10月8日 (日) 横浜みなとみらいホール (大ホール):午後0時
 (問) TEL.045-682-2015
 横濱JAZZプロムナード実行委員会事務局

10月10日 (火) 東京 BODY&SOUL
 (問) BODY&SOUL
 TEL.03-5466-3348

協賛: オランダ王国大使館



ブリコロールな音楽家の第一弾

text by 高見一樹

ドビュッシーを聴くというレヴェイのような。

菊地のアンサンブルはPepe Troment Azcararと名付けられ、昨年の6月。初のコンサートを行なった。Pepeの編成(バンドネオン/サククス/弦楽四重奏/ベース/ハープ/ピアノ/パーカッション×2)を決めたのは菊地本人だったが、とてもユニークなこの編成のためのスコアやオーケストレーションを書くことは中島との共同作業となった。コンサートを重ねるあいだに中島は二曲のオリジナルを書き下ろし、少しづつ『南米の〜』のレパートリーに新曲が加わるようになり、次第にこのアンサンブルの別の顔がちらちらと見え始めてきた。パーカッションを抜いたクラシックヴァージョンのPepe、というのがその顔で、中島と僕にはジョビンの晩年のライヴ盤『Tom

中島ノブユキの初のソロアルバムがよいよ発売された。彼と知り合うことになったのはコンボピアノのファーストアルバムを通じてだった。本格的に仕事をしようになるのは、菊地成孔の『デギュスタシオン・ア・ジャズ』からだ。最初の頃しばらくは、弦とハープのアレンジをお願いする、というようなことだけが続いた。菊地が『南米のエリザベス・テイラー』を発売し、アルバムコンセプトをライヴで実演できるアンサンブルを編成するということが今回の中島ノブユキのアルバムを生むきっかけとなり、ついでに言うならば、このことが僕個人が中島の音楽にのめり込むきっかけとなった。

Pepeの編成をマイナーチェンジしたアンサンブルをベースに中島とのプロジェクトがスタートしたのは、2005年のSPB139でのJazzTodayのライヴからだった。ピアノは中島本人が演奏し、このアルバムに収録されている大半の曲がすでにこの時点で完成していた。フェデリコ・モンボウ、ヴィラ・ロボス、ヴィニシウス・デ・モラー・エス、エリントンに中島のオリジナルが四曲というレパートリーだった。この間、中島は菊地とゴダール映画の為に書かれた作品を小編成のアンサンブル用にアダプテーションするというコンサートを行なっている。このとき演奏された作品『はなればなれに』(ミシェル・ルグラン作曲)は、後にPepeのコンサート・レパートリーとして採用された。アンサンブルの編成は主催者側の事情によりミニマムなものだったが、フルサイズのオーケストレーションが施されたオリジナルスコアを、トランペット/サククス/フルート/チェロ/ヴァイヴァフォン/ピアノという編成に原曲の表情やスタイルを見事に落とし込んだ。2006年の二月にレコーディングを開始し、あらたにシューマンの曲と中島の最新2曲がレパートリーに加わった。この頃並行して彼はU A X菊地『Cure

Can'ta Vinicius』の、ボサノヴァのようなドビュッシー、ラヴェルのようなサウダージが楽しめる室内乐的音楽が、すでに共通の理想的な音楽の顔ひとつとしてあった。

『エテパルマ』夏の印象』と題されたこの中島のソロアルバムは、当初、クロード・レヴィ・ストロースの本の題名からとられたタイトルがつく予定だった。ヨーロッパの影響下で変質していく野生を保存することの不可能性、遠近法における消失点のような外部を形式的に作り出すことの不可能性、このようなレヴィ・ストロースの憂鬱をもっと憂鬱にするようなボストモダンからの手紙のようなアルバムになることもできたのかもしれない。ただ、中島は、脱構築の哲学者がレヴィ・ストロースのブリコラーージュ器具仕事を引用して示すように、技術者による技術者のための新しい道具を開発することではなく、ありものをうまくつかって新しい表現にたどりつくこと、伝統という道具箱を新しい視点でうまく使いこなすことに長けた音楽家であり、レヴィ・ストロースの愛したブリコラーージュの音楽だと思ふ。ただ彼の道具箱に何が入っているかはいまのところはまだ謎だ。

Jazz』のアルバム制作に関わっている。菊地のクロード・ソーンヒルのようなフュージョンなブラス・アンサンブルという求めに応じて、彼はいくつもの特殊な編成によるブラス・アンサンブルを書き、ジョビンの『ルイーザ』におけるバロック風のアンサンブルや、ハープとブラスだけのアンサンブルによる『I be seeing you』などアレンジを書き上げている。正直、この作業のあいだにも僕らはまた新しい夢を見始めてしまっていた。



EWCD-0113 2006/7/26 Release ¥3,000 (tax in)

エテパルマ 夏の印象 / 中島ノブユキ

モダンの、ポップで、エキゾチックな耳触り…。

菊地成孔のアンサンブル、ペペ・トルメント・アズカラールの響きをデザインする中島ノブユキ、初のソロアルバム。ああ。名盤。ちょっとブレイクします。

- | | |
|--|---|
| 01. イントロダクション Introduction / Nobuyuki Nakajima | 08. 内なる印象 III IMPRESIONES INTIMAS / Federico Mompou |
| 02. ユーリディスのワルツ Valsa de Euridice / Vinicius de Moraes | 09. 内なる印象 Pajaro Triste 悲しい鳥 |
| 03. フォーリング Falling_ / N.Nakajima | 10. 内なる印象 Gitano ジプシー |
| 04. アリア (ブラジル風バツハ第五番より) Aria (from Bachianas Brasileiras No.5) / H.Villa-Lobos | 11. 愛の不安 Medo de Amar / Vinicius de Moraes |
| 05. アフリカンフラワー African Flower / Duke Ellington | 12. グラッシー Glassy / Nobuyuki Nakajima |
| 06. 内なる印象 I IMPRESIONES INTIMAS / Federico Mompou | 13. エテパルマ ETE,Palma / Nobuyuki Nakajima |
| 07. 内なる印象 II IMPRESIONES INTIMAS / Federico Mompou | 14. ラメント Lament / Nobuyuki Nakajima |
| | 15. 献呈 Widmung / Robert Schumann |

JazzToday Special INTERVIEW

ハンク・ジョーンズに 会ったんだ!

連載第2回

JATP に在籍した日々。

聞き手：末次安里 (本誌編集長)

それはあくまでも「一晚の経験」に過ぎないわけ。ところが一緒にツアーに出るとなれば本当に間近で、時には3週間連続で彼らの音楽をどっぷり聴くことが可能なんだ。年間に換算したらもう6週間くらい、偉大な先輩たちの音楽に浸かっているという、本当に幸せで凄く勉強になった歳月だったよね。

JT: いろいろな国にも行かれたんでしょう?

HJ: いや、実際にJATPのメンバーとして僕が海外ツアーを体験したのは、ヨーロッパへの楽旅が1回だけなんだ。その時はスウェーデン、フランス、オランダ、ドイツを回って、メンバーはチャーリー・パーカーとマックス・ローチ、それからエラ・フィッツジェラルドもいてという時期のツアーなんです。で、僕はいづれエラの伴奏者も務めることになるんだけど…。

JT: エラの名前が出ましたが、お二人の年齢差は?

HJ: エラとボクはたぶん同い年くらいだったと思うな(註: いずれも1918年生まれ)。僕が加入した当初はヘレン・フュームズさんというシンガーがいて、翌年にエラが迎えられたんだけど、1947年の時のツアーのシンガーはヘレンさんでしたね。

JT: エラはどういうシンガーで、どういう女性ですか?

HJ: いやあ、本当に素晴らしいシンガーですね。誰もが「当代随一のシンガー」だと認めている人でしょう。たとえば当時はあのビング・クロスビーでさえ、(彼自身も大変素晴らしいシンガーなのに)「男女の枠を超えて最高のシンガーはエラだ!」と称賛していたからね。本当に皆が認める素晴らしい歌手だったと思うよ。サラ・ヴォーンも同時代に活躍して、サラも素晴らしいシンガーではあるけれども…。

JT: エラが抜きん出て評価される理由はどこだと?

HJ: 皆が「エラがいい!」と言った理由はたぶん、二つあると思うんだ。ご存知のようにそもそも彼女が歌手になったのは、アポロシアターで行なわれるアマチュア・コンテストで優勝して認められて、チック・ウェブのバンドに15~16歳くらいの時に加わって…という流れだよ。そこで2、3年経験を積んで、要はなんというのか、若い頃から頑張って「下」から自力で這い上がってきた。そうやって認められるまで努力してきた足跡に皆が、というか聴く側もどこか自分を重ねて、投影して応援したいという気持ちを抱くんだと思うんだ。おそらく「生い立ちへの共感」みたいなものがあったのかもしれない。

JT: 二つ目の理由は天性のものですか?

HJ: そう、努力とね。歌のテクニックとしてはスキヤットからバラードまで、本当に変幻自在なテクニックを自分のものにして出ている。実際、あの時代にいろいろなテクニックを全部自分のものにして、それを無理なくヴァーサタイルなかたちで出来る歌手というのは本当になくてね。そういう部分でもやはり、彼女の素晴らしさがあるんだと思いますね。

一次号へ続く



The New York Rhythm Section
HANK JONES (1956)

「内臓に手を入れられた」ような衝撃を 覚えた武満作品。

香津美、話題のギタルネIIIを語る。

vol.4

聞き手：末次安里 (本誌編集長)



末次: ギタルネ第三弾の今回は「翼」という副題が「武満徹没後10年」を物語っていますが、そもそも香津美さんにとってトオル・タケミツという存在は?

香津美: 僕はね、高校生ぐらいの時にジャズ以外にも…まあ、当時は背伸びもしているわけですから、とにかくいろいろな音楽を聴いたんですね。クラシックから近代派、ジャズもフリージャズからヨーロッパのアヴァンギャルド、もちろんパリのビバップから何から、とにかくいろいろなものを浴びるように聴いていた。で、そんな時期に友人から「ノヴェンバー・ステップス」という曲を書いた凄腕作曲家が日本にいるんだって聞いて、「が、どうやら日本ではあんまり知名度がないらしい」とかね(笑)。

末次: 僕の場合も似たり寄ったりの出遣い方でした(笑)。

香津美: それでも「外国では凄く有名なヒトなんだ!」と友人がいうので、「オオ、そうなのか…」とそれを買ってきて、聴いたんですよ。

末次: 第一印象はどうでした?

香津美: 聴いたんだけど…最初はね、一体何が起きているんだか、よく分からなかったですね。それまでもいろいろな現代音楽を好きで自分なりに聴いてはいたんですが、なにか「のっぴきならないもの」に出遣った感じがして…要するにこう「日本人の腹を探られる」というのか、自分の中を触られるような感じだしね。どこか「内臓に手を入れられている」ような感じがしてね、決して乱暴ではないんですけど…。

末次: 分かります、分かります、よく。

香津美: それからいろいろと武満作品を集めては聴いてみた。で、まあ、スコアも買ってきたりして試してみてもますます分からないんだ(笑)。

要は武満さんにのめり込んでいた時期があるわけですが、逆に聴きすぎて正直「遠かった」ですね。夜道で会ったらどうしよう、怖い…みたいな(笑)。

末次: でも、やがて御本人と直接お会いになるわけですね。

香津美: ですね(笑)。あれは僕がプロになって1980年代かな、(註: '87年1月開催の第3回) トーキョー・ミュージック・ジョイでしたね。「映画の日」か何かに武満さんがいらして(註: トオル・タケミツ「フィルム・ミュージック」ナイト)、僕はその日のオーケストラの一員として出ていたんです。で、ドラムやベースには僕の仲間もいたからリハの時から声を掛け合って、当日はやらない曲とかも関係なくジャム・セッションをやって盛り上がりつつあったんですよ(笑)。

末次: 弾き捲っていたわけですね。

香津美: そう、ステージでガンガン弾いていた(笑)。そしたら、それを武満さんがご覧になっていたらしくて、あとで鯉沼(利成)さんに「いやあ、あんなに楽しそうにギターを弾いている少年というのか青年というのか…こんなのは初めて見たね(笑)」とか言ってくれたようで。その後にもたまたま鯉沼さんとお会いしたら、「おい、香津美くん。武満さんがなんかキミのことを誉めていたというかなんていうか…そんなことを言ってたよ(笑)」とか言われて、凄く嬉しかったのを今でもよく憶えていますね。

末次: そうなんですか。いい話ですね。

香津美: そういう経緯があって、直後にたまたま武満さんと電車の中でお会いしたんですよ。それでまあ、僕のほうからツカツカと近寄って行って、「僕は武満さんの作品のファンでもあるし、この前はなんか僕のことを言っていたらどうして凄く嬉しかったんです!」とか何とか。内容は正

確に憶えていないんですが、そんなコトを申し上げたいですよ(笑)。そうしたらむしろ武満さんのほうが妙に恐縮なさって(笑)、「えっ!?!」というぐらいシャイな感じがしたんでなんか意外だったんですよ。一次号に続く



Guitar Renaissance III (翼)
渡辺香津美

EWSA-0125 ¥3,000 (税込) 2006/06/07 Release

- 01. 虹の彼方へ (Harold Arlen)
- 02. クーラント 無伴奏チェロ組曲第1007番より (J.S. Bach)
- 03. 天国の階段 (Jimmy Page / Robert Plant)
- 04. クーラント "FROM HEAVEN" (J.S. Bach)
- 05. 翼 (Toru Takemitsu) / 06. MOMO (Koko Tanikawa)
- 07. 星影のステラ (Victor Young)
- 08. シェルブールの雨傘 (Michel Legrand)
- 09. IF I FELL (John Lennon, Paul McCartney)
- 10. クレオパトラの夢 (Bud Powell)
- 11. アストロ・ジャンプ (Kazumi Watanabe)
- 12. チュニジアの夜 (Dizzy Gillespie, Frank Paparelli)
- 13. 月の沙漠 (Suguru Sasaki)

渡辺香津美: guitar / 中牟礼貞則: guitar on tr.7
吉部賢一: oboe on tr.8 / 吉田美奈子: vocal on tr.5



© NAMI OGATA

Jazz of LIFE
シカゴと夜と音楽と
連載 vol.5

番外編
ウンブリアジャズフェスティバル

イタリアのブーツ型のちょうど真ん中に位置するウンブリア州の州都、ペルージャでは、今年も7月7日から17日にかけて、ヨーロッパ最大級の夏の音楽イベント、ウンブリアジャズフェスティバルが行なわれた。今年メインステージはDiana Krallで始まり、Hank JonesやWayne Shorterなどの重鎮からChick CoreaやPat Methenyなど錚々たる面々が出演し、Harbie HancockとSantanaで幕を閉じた。その間にはEric ClaptonやJames Brownまでお目見えし、ペルージャの街全体が11日間ノンストップのお祭り騒ぎとなった。

今年で33年目となるこのフェスティバル、スイスのモントルーと並んで大規模なジャズフェスとして名高く、ヨーロッパから観光客が集まってくる。街の中心にある由緒ある大聖堂の前には巨大なステージ

が設置され、荘厳な教会の前は、真夜中まで無料コンサートで盛り上がる人々の熱気でカオスとなる。朝晩ニューオーリンズのバンドがメイン通りをパレードし、中心街に2ヶ所ある由緒正しきオペラ劇場も、この時ばかりはジャズメンたちが占領。夜中2時を過ぎてもストリートライブと酔っ払いの歓声が鳴り止まない。もちろん毎年音楽一色に染まるこのフェスティバルなのだが、今年は少々違った。下馬評に反してイタリアがW杯決勝まで進出してしまったものだからもう大変。ここはサッカーの国イタリアである。ジャズよりサッカーが大事な人は一目瞭然。すべてのコンサートはストップし、道の至る所にテレビやスクリーンが設置され、にわかに警察と救急車が警戒体制をとる中、街中の人々が試合に釘付けとなった。もちろん、優勝が決まってからの狂喜乱舞ぶりは言う

text by 尾形奈美

までもない。教会前のステージはもちろんのこと、道という道には人があふれ、ありったけの声を張り上げ、朝まで世界の余韻に酔いしれた。単なる近所迷惑というレベルではない。国家規模の近所迷惑である。そう言えば、Caetano VelosoやSergio Mendesなどのブラジル勢は誰も9日の出演予定はなく、すべて次の日に集中していた。おそらくブラジルが決勝進出と見込んでいたのであろう。とにかく可哀そうだったのは、9日の夜にメイン開場でコンサートの予定だったイタリア人ギタリストのPino Danieleだ。イタリア人すら予想外のW杯優勝に沸いた、今年のウンブリアジャズフェスティバルであった。

■尾形奈美 宮城県仙台出身。写真家。2002年Chicago Jazz Festivalに連動してHotHouse Picture Jazz展に招待出品以来、シカゴを中心に活動してきた。03年、米国の写真雑誌「Photo Review」の国際写真コンテストにて第3位を受賞。今年2月仙台にて初の個展。

旬でホットなジャズ情報!

MOONKS EXPERIENCE NEWS Vol.4

パンドラの扉

無言の湿気に押しつぶされそうなどある夏の日、我々は瞬次元を彷徨い、再び覚醒した時にはうっすらと寒気すら感じていた。あの空間で体験したのとはなんだったのか。もしかすると我々は…。



パンドラの扉

昔の恋人には会わないほうがいい、楽しい思い出は記憶の中だけで大事にしておいたほうがいい。ただ、別れも言わず姿を消した恋人のことはいつまで経っても頭から離れない。1990年代日本中いや世界中のジャズファンを熱狂させたピアニストがいる。「大西順子」。斬新でいて王道、ダイナミックでいて繊細、全体から発散されるカリスマのオーラに誰も魅了された。現在多くの女性ピアニストが活躍し、ピアノトリオブームと呼ばれる現象があることを考えると、それは単なるムーブメントという簡単な言葉では片付けられない存在。しかし彼女は6年間

で8枚のリーダー作を残した後突如活動を中止してしまった。その後もジャズファンは彼女の存在を忘れることはなかった。むしろ待望論の声が日増しに大きくなるばかりだった。ある日突然耳を疑うニュース(噂)が飛び込んできた。大西順子が大野俊三 (tp) の帰国ツアーのメンバーとして復活するらしい! 待ちわびた「恋人」の音を聴こうと2005年4月5日、吉祥寺サムタイムは入り口の階段まで人が溢れるほどの大フィーバーとなった。その後彼女はゲリラ的にライブを行なっている。大西順子第二章、今回はゆっくり楽しむことにする。(大河内善宏)

Jazz Workshop Presents "PANDORA"

アンコールに応じて大西順子が再び登場し、詰めかけた80人近くの聴衆がまだ息を整えられないうちに、ホレス・パーランの〈US THREE〉をいきなり怒涛のラッシュで弾き始めたとき、F1マシンのような急激な加速の衝撃とともに『パンドラ』のジャケットがフラッシュバックした。このとき大西の完全復活を確信した。

『パンドラ』はsomethin' else10周年企画として大西順子、川嶋哲郎、五十嵐一生、本田珠也、安カ川大樹ら16人のトップミュージシャンが持てる力の全てを注ぎ込んだ1997年12月録音の3枚組みの大作。〈US THREE〉はこの中で故・日野元彦が唯一参加した曲。大西の落雷の地響きのような低音のリズムが地の底を這うようにグルーヴし、全てを飲み込めんと圧倒的な存在感で押し寄せれば、日野元彦は閃光とともに獲物を狙う野獣のような鋭い一撃をスティックで叩き出す。6分39秒が無限に思え、聴き終えたとき喉はからからに渴いている。このアルバムは大西がプロデューサー的に参加しており、トリオはもとよりカルテット、クインテット、セクステットと、思いのままに参加し弾きまくり10分を超える曲もざらというまじにやりたい放題のライブな作品となっている。幸運にしてライブを聴くことができた人も、そうでなかった人も、この一枚をフル・ボリュームで聴けばライブの香りに触れることができる。残念ながらすでに廃盤となっているが中古市場ではときおり流通しているのでぜひ気長に探してみたい。(白澤茂稔)

大西順子トリオ

2006年7月28日 ライヴレポート

いやはや、激ヤバ。涼しい表情をしたまま大西順子は、この『サムタイム』に自分を確かめに来てくれた全員を、昂揚させて興奮させてトランス状態に追い込み、そして昇天させた。信じてくれたお礼にとばかりに確実に実践した。大西は、セロニアス・モンクとレイ・チャールズを足して2で割った感じだ。これ以上ないくらいのスウィング感とグルーブ感を併せ持ち、ものすごいスピードで疾走する確かな演奏力。エリントン・オーケストラって、こんな感じなんだろうな、と思わせるスウィング感。グワキン!といった不協和音はモンク的かという、そうじゃない。モンクのそれより遥かに低音域でコントロールされて

いて、もっと内省的というか、響きに粘りがあって、しかも絶妙なブレンド加減で生み出されるグルーブ感は重くて濃厚でたまらなくソウルフル。また、ブルージーなフレーズが効果的なソロを際立たせるものにする強烈なリフなど、もう、誰もまねする事が出来ないのではないかなと思わせるほどの“ドス黒さ”だ。それだけじゃない。ジャックナイフを思わせるような切れ味鋭い切り返しは、ロナウジーニョのフェイントのくらい“鋭い”。ベースの米木康志とドラムスの広瀬潤次はよくついていけるものだなと妙な感心をしてしまう。余計な心配なのだが、大西のライブではいつも感じてしまう。それだけ孤高な存在なのだ。ああ、それにしても、この大西順子よりすごいライブをする人がどこかにいるのだろうか…。(前泊正人)

あのライブのトランス状態からいまだ抜け出せない。他のピアノを聴いてもどこか虚ろだ。もしかすると、我々はパンドラの箱の扉を開けてしまったのかもしれない。

2006.7.28(Fri) at 吉祥寺『サムタイム』
大西順子トリオ:大西順子 (p) 米木康志 (b) 広瀬潤次 (ds)

1st Set
EULOGIA
PORTRAIT IN BLUE
BRILLIANT CORNERS
HOW HIGH THE MOON

2nd Set
CON ARMA
SMOKE GETS IN YOUR EYES
I COVER THE WATERFRONT
CONGENIALITY
US THREE

【MOONKSとは…】
6人のメンバーの頭文字からなるMOONKS。「批評」ではなく、ただ「好き」を唯一の基準に活動する「ジャズ鑑賞集団」。2004年9月のフリーペーパー「MOONKS Must150」はCD時代の金字塔的ガイドブックとして購入者に圧倒的に支持された。「ジャズ批評」のCDレビューに注目。



誰かを想う気持ちやかたちは決して、他人様のソレと比べたり、量で計れるものでもないのだが、“愛の表現”に長けている人はやはりいるもので…。

ジャズ音楽堂

連載6

ジャズ愛にあふれたタジマ画伯の作品を観る度、描かれたアルバムを出してきては（オレにも絵心があればなあ…）と想うのだ。

絵と文
タジマヤスタカ

原田真人→宇崎竜童→矢野沙織→早坂沙知→原田芳雄→坂田明→阿川佐和子→

JAZZの扉 Vol.8

父が聞かせてくれた「ティー・フォー・トゥー」

ゲスト
島田歌穂

オンキョーのAV試聴室「マリンシアター」に足を踏み入れるなり、「あら〜、ここは、主人を連れて来たかったわ〜」と第一声を発した島田歌穂さん。ジャズ・ピアニストのご主人、島健さんは重度のオーディオ・ヴィジュアル・マニアとか。祖母が映画、音楽、演劇大好きなモガ、祖父がバイオリニスト、母親が元タカラジェンヌのジャズ歌手、父親がジャズ・ピアニスト。生まれながらにして音楽と芸能に囲まれて育った島田さん。生まれる前からジャズと出会っていた彼女の思い出の曲はドリス・デイの「ティー・フォー・トゥー」。さて、この曲とどう出会ったのかを語っていただいた。

子役でデビューしてからずっとドラマのお仕事をしていたのですが、17歳の時にアイドル歌手をやりました。17歳というお話を頂いたので。前の年には松田聖子さんがデビュー、ちょうどその頃です。可愛いふわふわとしたフリルの服を着たアイドル全盛の頃のことです。

私はドラマをやりたいながら、女優になりたいとか、いつかミュージカルをやりたいと思っていたのですが、せっかくのお話ですし、歌手もやりたかったので、昭和56年、マッチと同じ年に歌手デビューしました。翌年には中森明菜ちゃんがデビューしました。

なかにし礼さんのプロデュースで、今は無きトリオ・レコードにアイドル・レーベルを作ろうということでも来た、レイ・レーベルのアイドル第一号だったんです、私。

デビューの時にはオリコンの表誌にもなり、けっこう派手に宣伝していただきました。ところが、一応シングルも4枚出したんですけど、だんだん寂しい仕事になってきてしま〜うん、どうしようかな〜と思い始めた頃に、「シンデレラ」というミュージカルのオーディションを受け、シンデレラ役に受かったんです。

そして、初舞台を踏みました。アイドルでデビューしたものの、全然売れず、私自身悶々としていた頃だったので、ミュージカルの舞台に立った途端、ばあ〜んと世界が開けたんです。私にとってここが一番輝ける場所かもしれない！と思ってミュージカル女優への道を決心したんです、初舞台の初日のステージで。

アイドル歌手を辞め、事務所も辞めてフリーになり、ミュージカル目指して歌やダンスのレッスンを始めたとは言え、ブー太郎じゃないですか、あ、ブー子か、何もお仕事をしていませんから。

そんな時に「お前、ぶらぶらしていてもしょうがないからジャズでも勉強するか」と父が声をかけてくれました。19歳の時です。その当時、父は赤阪のお店でピアノを弾いていました。そのクラブのホステスたちは、みんな歌手や女優の卵で、みんなで一日3回ショーをやります。そのショーが売り物で、どちらかというと、そのショーを楽しみに音楽好きのお客様がいら〜しゃる健全なお店だったんです。

父がピアノを弾き、ショーの構成、アレンジをしています。変な心配もないので、そのお店で歌のアルバイトを始めました。

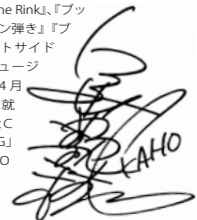
この時、生まれて初めて父にジャズの手ほどきをしてもらいました。まず、クセのない白人の女性ボーカルから聞いてごらん、ドリス・デイがいいかなと言われて、「ティー・フォー・トゥー」、そしてもう一曲「ティー・チャーズ・ベット」からやってみたらどうだと言ってくれました。自分で譜面を書くことやジャズヴォーカルの組み立て方を教わり、その後は自分の個性に見合った歌い方を見つけてくださいと言われて、ショーで歌い始めました。3人組の男性コーラスもつけてくれて、ほとんどこのレコードのアレンジのまま歌ったんです。間奏で習い始めたタップも交えたりして。

つまり、人前で初めて歌ったジャズが「ティー・フォー・トゥー」なんです。その後、事務所も決まり、仕事が軌道に乗り始めるまでの2年半、そのお店



島田歌穂略歴

東京生まれ。父は音楽家、母は宝塚出身のジャズ歌手。4歳からバレエとピアノを習い始める。子役としてデビュー後、81年『マンガチックロマンス』で歌手デビュー。82年7月ミュージカル『シンデレラ』で初主演。同年、ゴールデンロー賞演劇部門新人賞、文部大臣大衆芸能部門新人賞受賞。87年、ミュージカル『レ・ミゼラブル』のエボニーヌ役に抜擢され、その年の英国主催『ロイヤルバリエティパフォーマンス』に日本の俳優・歌手として始めて招待される。その後、『アニー』主演とれ、『She Loves Me』、『The Rink』、『ブッタ』、『屋根の上のヴァイオリン弾き』、『ブラッドブラザーズ』、『ウエストサイドストーリー』など数々のミュージカル作品で大活躍。2003年4月より大阪芸術大学助教授に就任。2004年には30周年記念CD『SOMETHING'S COMING』リリース、コンサート『KAHO TONIGHT』も大好評。



で歌わせていただきました。その、19歳から21歳にかけての2年半の間に、ジャズのレパートリーをどんどん増やすことが出来たんです。この時期に毎日生演奏で新しい曲を色々試して歌い続けることが出来たこと、今でも、とても感謝しています。

編集協力：ピンポイント



コーン・ブレッド リー・モーガン

去りゆく夏を惜しみつつジャズ・ボッサなどいかがでしょう。ジャズメンがボッサノバ曲をカバーしたアルバムも色々ありますが今回は特にジャズメン・オリジナルのボッサが入っているアルバムを3枚。

リー・モーガン(tp)、ジャッキー・マクリン(as)
ハンク・モブレイ(ts)、ハービー・ハンコック(p)
ラリー・リドリヤー(b)、ビリー・ヒギンズ(ds) '65年

1曲目、明るい脳天気なズンズンチャッチャッ具合がOH、モーレーツ！日本の'60年代歌謡曲を思わせるようなタイトル曲<コーンブレッド>。真面目なジャズファンはこういうの大好きだろうな、わはは。それっ！ゴー、ゴー！

な感じの安っぽいノリのブレイク、キメがも〜たまりません。2曲目はマクリンのハードさが映えるモード曲<アワ・マン・ヒギンズ>。

幾分熱くなったところでいよいよ今回お目当ての3曲目モーガン・オリジナルのジャズ・ボッサ名曲<セオラ>が登場。まずハンコックがイントロ代わりにワンコーラスさらっと流すんですがこれがまたセンス抜群でこの曲のムードをうまく作り出してまずは準備オッケー。ゆったりと伸びやかなメロディーを繋いでゆくテーマはさざ波のよう、軽くブレイクを交えながらのトリルもチャーミングでございます。あまりハッターりもかまざず、粋なモタリ具合もよろしくただひたすらに歌い上げるモーガン。続くモブレイのまったりと茫洋風味もいどをかし。



ビッグバンド・ボッサノバ クインシー・ジョーンズ

日本で「Q」と言えば頭のてっぺんに毛が3本のオバケですが、世界で「Q」と言えばこの人、クインシー・ジョーンズ御大です。常にキャッチーかつクオリティの高い音楽を作り続けて半世紀！その時代時代の最先端の音楽を取り入れたサウンド作り、それでいて何十年経ってもその音が色褪せることはない。凄いですね。

クラーク・テリー(tp)、フィル・ウッズ(as)
ポール・ゴンザレス(ts)、ローランド・カーク(fl)
ジェローム・リチャードソン(reeds)
ラルフ・シプリン(p)、ジム・ホール(tp)他 '62年

クインシーのオリジナルは1曲目の<ソウル・ボッサ

バ>。映画『オースティン・パワーズ』(3作目にはクインシー本人も登場！)で再ブレイク、今でもよくテレビなどで使われていますのでこの曲は皆さん御存知かと思えます。低音楽器とパーカッションが刻むリズムにピアノがからむイントロの後爽快なキメー発！賑やかで洒落た感じのフルートのメロディ……。ここまできるとボッサノバか？という感じも無気にしも非ずですが、まあ楽しいからいいじゃないですか。イェー！

ほかには、<デサフィナード>や<カーニバルの朝>、<ワン・ノート・サンバ>などボッサノバのスタンダードにクインシーがソウルを吹き込んだアレンジで。録音もカラッとキレが良く40年以上前の物とは思えないほど。晴れた日のドライブや街歩きにどうでしょう。



アダムズ・アップル ウェイン・ショーター

僕が一番好きなジャズ・コンポーザーはこの人。どの曲も怪しく美しくカッコいい。それをあの不思議に広がる音色で演奏されるともうたまりません。一年に何回か、取り憑かれたようにショーターアルバムを次から次へと聴きまくる時があります。

ウェイン・ショーター(ts)、ハービー・ハンコック(p)
レジー・ワークマン(b)、ジョー・チェンバース(ds)
'66年

さてショーターオリジナルのボッサは3曲目の<エル・ガウチョ>。乾いたチェンバースのリム・ショットに導かれて浮遊感のあるショーターのメロディ。怪しさと爽やかさ

が混在する不思議なボッサ曲です。

このアルバムではさほど熱くなる事も無くワンホーンでゆったりと吹くショーターですが、そのゆらりふわり具合がまた、より怪しく濃厚なショーターエキスをじゅわ〜っと。たまらんとす。また、ツボを心得た見事なサポートぶりを見せるバックの3人もゲー。特にハンコックのカッコいい事ったら！アルバム全体を通してバックにソロで大活躍。この時期、常に一緒にプレイしていただけた事はあって、もう阿吽の呼吸ですね。見事にショーターの世界観を演出していて、さっすが〜、わかってらっしゃる、先生！って感じです。

それでは、まだしばらく暑い日が続くかと思いますが体調などお崩しにならぬようご自愛下さいませ〜。

e-onkyo.com
music store

秋吉敏子
音楽生活60周年記念企画

オーディオメーカーのONKYOが運営する高品質音楽配信サイト [e-onkyo music store]と日本クラウンの共同企画

高品質配信実現のために、レコーディングエンジニア・行方洋一氏によるスペシャルチューン！今回の配信のために特別にアソートされたベストセレクションを含む13タイトルを順次配信中！

指先から鍵盤へ、彼女が込める想いまで聴こえてくるようだ。

こだわりの音質 24bit96kHz で聴く、日本が世界に誇るジャズピアニスト 秋吉敏子の世界

High Definition Sound

HD高品質音楽配信サイト

e-onkyo music store
http://music.e-onkyo.com/



言葉まで饒舌である、 という音楽家のふしぎ。

text by hanao (JJazz.Net)

私はたぶん、出会いを苦手とするほうだと自負しています。外へ外へ向かい、他者に晒され続けるのはきついなあ、と感じるので。それはもう、想像してみただけでげんなりしてしまいます。夜中にひとりでエレベーターに乗ると同じくらい、知らない人に「さあ、会うぞ」というのは緊張します。知らない人と会おう、というよりも正しくは、知り合いになることが前提の出会い（大人の日常の茶飯事）は、ほぼ恐怖です。けれどこの性分は、単なる面倒くさがりなのかもしれません。いま親しくしている人たちだってもとはといえば、ひとり残らず「知らない人」だったわけで。

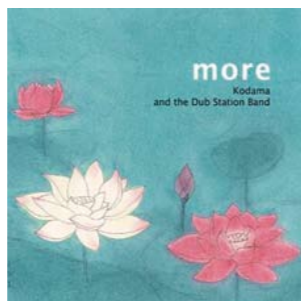
そんな私にとって、『BOYCOTT RHYTHM MACHINE II / VERSUS』という作品はとても勇敢なものに映りました。音での表現のプロたちが、初めて出会う相手と、出会ったその日にセッションしたものが7戦ぶん、収められているからです。「今日出会う相手と、今日音を創るのだ。」私だったら緊張しすぎてつぶれてしまいます。相手が大物とか、ジャンルがあまりに違うとか、そんな具体的なことではなく、「初めての人とセッションをする」という予定が目の先にしっかりと待ち構えているだけで。

肝心のセッションは、これが俺だ、という主張と、どうなっていくか、と通じようとする意識と、単純な気持ち良さ、後戻りもやり直しもない緊張感とに満ちています。大人の出会いだとはにわかには信じられないくらいに澄んだ空気は攻撃的。真空の中で泳いで、睨みあいながら抱きしめて、閉じこもりながらさらけ出す。そして、意表をつく組み合わせによるセッションと同じくらいに刺激的だったのは、DVDに収録された全参加アーティストへのインタビューでした。

音楽家の言葉は不思議です。音をメインに扱う人にとって、言葉とは何だろう、といつも不思議に思うのです。音を使ってあんなに表現をしているのだから、言葉は出がらしみたいなものでしかないかという、それが全く正反対なのです。おしゃべりなのとも違って、彼らの言葉はその音と同じくらいに饒舌でした。言葉も音楽なのか、音楽が言葉なのか、それは分からないけれど。

音楽家の言葉といえ JJazz.Net で今、こだま和文さんのインタビューを約1時間ほど、無料放送しています。こだまさんの語りもまた、非常に饒舌です。言葉数と饒舌さは、関係がありません。発せられる言葉のひとつひとつがどれだけ生き生きとリアルか、意味に満ちていると同時に意味を失っているか、それだけが饒舌さの基準だと私は考えているのです。

MORE / KODAMA AND THE DUB STATION BAND



GNCL-1072 ¥ 3,360 (tax in)
2006/7/5 Release
CD + DVD の 2 枚組！
01. MORE
02. LULLABY FOR FRANCES
03. WHAT A WONDERFUL WORLD
04. FROM RUSSIA WITH LOVE
05. ONE MORE TIME
06. FOLINA
07. SUN IS SHINING DUB
08. JENKA
09. END OF THE WORLD
10. KIYEV NO SORAZI (20 YEARS SINCE CHORNOBYL)
11. 黄金の花
12. LOTUS LAND
13. MORE MORE

独立した第一作目が大ヒット！ 『ボイコット・リズム・マシン2』を作った男。

text by 沼田 順

vinylsoyuz 清宮陵一

BOYCOTT RHYTHM MACHINE II -VERSUS- V.A.

Vinylsoyuz CD+DVD : LACDV-0002 ¥3,800 (税込)
2006/7/20 Release

[CD:73min]
01. 高木正勝 vs 南博
02. NUMB + SAIDRUM vs 吉見征樹 + 井上恵司 surround vision: 明鏡止水
03. SHUREN THE FIRE vs 外山明 Mirror Bowling: King key
04. GOMA da DIDGERIDOO vs 不破大輔
05. AxSe vs スガダイロー
06. 半野喜弘 vs 菊地成孔 VJ: Gen Natsume (SHOOTING STAR)
07. DJ KENTARO + DJ BAKU vs 芳垣安洋 + 岡部洋一 VJ: Gen Natsume (SHOOTING STAR), DJ KENTARO
[DVD:100min]
ドキュメンタリー映像 (インタビュー、演奏、オフショット等)



先月発売され大ヒット中の『ボイコット・リズム・マシン2』(以下『BRM2』)というコンビ CD / DVD を制作した男、ヴァイナルソユーズの清宮陵一に話をきいた。90 年前後だったと記憶するが、ビクターがアナログのプレスから撤退し、国内でアナログ・レコードをプレスできる会社は東洋化成一社となった。その後、清宮は営業として東洋化成に入社した。「アナログ製造受注の営業をやっていたのですが、こちらからも出ていくことは出来なかつた、受注した作品の配給も始めたんです。それがヴァイナルソユーズの始まりです。」

こうして作品の配給で販路を作り、配給だけに止まらずオリジナル制作も始めたのが2002年のこと。「ライセンスとかリミックスなどで、オリジナルは20作品くらい作りました。」ジャズに限らず、アナログ盤という切り口でヒップホップ、ダブ、エレクトロニカなどジャンルは多岐に及ぶ。「2004年に12インチでDJ アッパーカット、デート・コース・ペンタゴン・ロイヤル・ガーデンと、CDでトリアル・プロダクション、そして最後にコンビの『ボイコット・リズム・マシン』を出して」彼は東洋化成を退社する。退社する際、自分で立ち上げたレーベル名“vinylsoyuz”を譲り受け、一人で企画制作をやり始めた

のが2005年5月のこと。計画から一年以上の月日を経て、ついに『BRM2』は完成した。今後も3作品くらいのプランがあるという。「ソユーズっていうのはロシアの宇宙船で、同胞とか同盟という意味なんです。僕はアメリカ的なモノがあまり好きじゃなくて、ロシアの人力でチープな、それでいて非常に安定感のあるアノ感じが好きなんです。それに僕の仕事はいろいろな人や人を繋いでゆくという作業だと思っているので『ヴァイナルソユーズ』というレーベル名にもこだわりがある。」

なるほど確かに清宮のセレクトする音楽はDCPRGであれ渋さ知らズであれ ROVOであれ、人力で、いい意味においてチープで、安定感のある音楽ばかりだ。だが『BRM2』ではサブタイトルを『ヴァーサス』とし、あえてその安定感を崩そうとしているかのようにも感じられる。したがってこの先の清宮のプロデュース・ワークも期待大である。

また『BRM2』の映像やインタビューでは、それぞれのアーティストの生い立ちや、日本人音楽家としての世界との関わりなど、出し切れなかった部分も多々あるという。このプロジェクトを継続しドキュメンタリーの映画として制作したいというプランもあるらしい。『BRM2』のDVDをご覧になった方はお分

かりかと思うが、全てのミュージシャンへのインタビューが収められていて、各々の音楽に対する姿勢やコラボレーションの意義などが語られている。確かにこの部分のみをドキュメンタリー映画にしたなら、とても意義深いものになると思うのは私だけだろうか。

「レーベルだけで食っていくのは苦しくないか」との質問に対しては「ヴァイナルソユーズにのみ頼りすぎると、それが作品の“品”に影響しそうな気がするの、他にまったく別の音楽関連の仕事もしています。」ときわめてアーティスト的な解答が返ってきて意表を衝かれた。ビジネスと音楽の間に、あ

る一線を引くクールな考え方だと思う。それはこんな彼の主張からも伺える。「東京の下町で生まれ育ったので、今後下町での音楽の場所作りとかワークショップとか、とにかく地域の人々を集めて何かをやりたいんです。東京の東側って西側に比べるとほとんどそういう場がない。そういう場を作って行きたいんです。」私も東側に住んでいるので、よろしければ声をおかけ下さい、清宮くん。とついついエールを送りたくなる力強い言葉。とても穏やかな顔立ちをしているのにこの人は図太い何かを持っているな、と感じた。

internet radio station
JJazz.Net
Japan Jazz Network
常時約500曲
全12カテゴリー >>> www.jjazz.net

Impression of Tristano

第四回

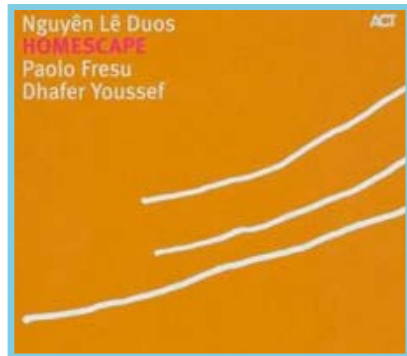
B♭



連載 vol.8

text by 小沼純一

行き交い、重ね合う。



duos homescape nguyen le

01. Stranieri
02. Byzance
03. Muqam
04. Mali Iwa
05. Zafaran
06. Domus de Janas
07. Kithara
08. Chelsea Bridge
09. Safina
10. Des Prés
11. Thang Long
12. Neon
13. Mangustao
14. Lacrima Christi
15. Beyti

【パーソナル】
Nguyễn Lê:
acoustic, fretless, synthesiser, e-bow and
Vietnamese guitars, computer programming and
electronics

Paolo Fresu: trumpet, flugelhorn and electronics
Dhafer Youssef: oud, vocals and electronics

レは15歳でドフマーとしてデビュー、それからギター、ベース、ギターをも弾くようになって後、造形美術を学び、さらにはエクソティスムの修士を得ている。本格的に音楽活動を開始したのは20代前半。83年にウルトラマリンを結成、デファンス市の国際ジャズコンクールで第一位を獲得。さらに『DE』は89年度ワールドミュージック最優秀アルバムに選ばれることになるだろう。

これまでのギタリストのスタイルを自らのものに、ギター以外の楽器をも扱いつつ、狭義の「ジャズ」にとらわれない演奏をする。それは、ただ商業的な「ワールドミュージック」ではない。もちろん80年代

複数の音楽的伝統、伝統と言いたくなければ系統でも流れてもいいのだけれど、そうしたものがけつしてただのミックスやそのときの通りの通りすがりというかたちではなく、終始一貫、思考と志向されている音楽家として、ずっと気にしているのが、バリ出身のヴェトナム系ミュージシャン、ゲン・レーとときにニエ・ン・リーと記されているが、違うんじゃないかなーである。今年リリースされた『デュオ/ホームスケープ』でも、そうか、そうなんだなあ、と妙に納得してしまつた。一緒に演奏しているのは、イタリア出身のパオロ・フレス(トランペット系、ほか)、チュニジア出身のダフェル・ユセフ(ウード、ほか)。

中国からの長い長い影響、フランスの植民地としての歳月。ヴェトナム民主共和国が独立するのは第二次世界大戦が終結した1945年である。以後、かのヴェトナム戦争があるのだが、レが生まれたのは59年だから、ヴェトナム戦争の難民として両親がフランスに渡ってきたのではないだろう。

いわゆる「現代音楽」のフィールドではゲン・リー・エン・ダオやトン・タ・ティエの名が挙がる。特に後者は『青いパイアの香り』や『シクロ』『夏至』の映画のための音楽で知られている(これらの監督トラン・アン・ユンはヴェトナム戦争時、12歳のときにフランスに移住)。

デュオというスタイルは、一対一、まさに即興を主眼とするジャズにおいては真剣勝負であり、そこで何が出来るかこそが、ミュージシャンの本領発揮となるのだが、『ホームスケープ』は、ただ一緒にやったというだけではない、はるかに作り込まれたものだ。しかも、相手も、そのときどきにしっかりと「comp」してゆく。そのプロセスと枠のなかで、互いのヴォーカル・ブレイは行き交い、ときに対立し、てのひらを重ね合う。それは、やはり「ジャズ」ではあるが、当然「モダン」でも「エレクトリック」でもない、文字どおり「コンテンポラリー」であり、かつ複数の「世界」と交通しあうメディアなのだ。

今回はアルト・サクスの増田ひろみが入ったところまでの話でした。

カルテットのみで演奏していた時は、ピアノの都築猛と僕がどちらも暗く屈折したタイプなこともあって、サウンドの色合いが陰気でモノトーンになりがちだったのですが、華のある増田さんのサクスの入ることで、単調になりがちだったバンドサウンドに幅の広がりが出るようになりました。

加えて、有り難い事に彼女のファンの方たちが平井バンドのライブにも来てくれるようになり、徐々に集客数も増えていきました。

ところで、トリスターノ派のグループは、コニッツとマーシュのコンビに代表されるように2サクスの編成が多く、トランペットやトロンボーンといったプラス奏者はあまり起用されていません(トリスターノの弟子にはドン・フェラーラ(Tp)等のプラス奏者も一応います)。考えられる理由としては、楽曲がプラスで演奏するには難しすぎるということもあるでしょうが、プラス特有の破裂音やアタック



の強さと、トリスターノの音楽のレガートなメロディ・ラインとの相性が悪いことのほうが大きいと思います。トリスターノ系のホリゾンタル・ラインを演奏するにはサクスのなめらかなサウンドが最も適しており、同じリード楽器同士だと音もよりブレンドして聴こえます。トリスターノたちのオリジナルの演奏をCDやレコードで聴いていると、やはり自分のバンドでも、テナー・サクスを加えて、コニッツ、マーシュ、にビリー・パウアーのギターが入ったトリスターノ・グループと同じ編成で演奏してみたいという気持ちが強くなっていきました。

テナー探しは、アルトの時以上に困難を極め、もうアルトのワンホーンでいいかと思い始めていました。ある日溜まった雑誌を捨てるために整理していると、その中から当時('99年)から2~3年前のジャズライブがあったため、なんとなくページをめくっていると、そこに橋爪亮督というテナー・サクスの奏者に関する記事(ライブ・レポート)が載っていました。記事の内容は詳しくは覚えていませんが、確か、空間的な広がりのある音—のようなことが書いてあり、もしかしたらこの人うちのバンドに合うかもしれないという予感がありました。本屋に行き最新号のジャズライブのライヴス

ケジュール欄をチェックすると(そのころはまだネットをやったことがなかったので)、たまたま次の日あたりに橋爪くんのライブがあったため、トリスターノ系の譜面の束を抱えて早速聴きに行ってみることにしました。

当日のライブは、橋爪君のオリジナル曲も良かったのですが、それ以上に彼自身のテナー・サクスの音色、ブレイに、より強いインパクトを感じました。日本の若

手には珍しくダークで柔らかい音で、ウネウネとしたラインを吹く演奏がすっかり気に入ってしまい、ファースト・セットが終わると同時に本人に近づき、面識がないにもかかわらず「トリスターノの曲をやるバンドやってるんだけど、あなたやってくれませんか」と言って譜面を手渡しました。橋爪君は「いきなりなんだこいつは…」と思ったようですが、元々ウォーン・マーシュには興味があったし、なんだか面白そうだということで参加してくれることになりました。(以下次号)

*現在polystarより橋爪亮督3枚目のリーダー作が発売中です。

LIVE スケジュール

● 8/18(金) PM2:30
新宿 PIT-INN(昼) ¥1,300
平井庸一(G、バリトンG)、都築猛(P)、増田ひろみ(As)、橋爪亮督(Ts)、蛭子健太郎(B)、竹下宗男、鈴木かおる(Dr)
…ドラムが2人になっていますが、1人だけの可能性もあります(?)。

● 9/17(日) PM8:00
新宿 PIT-INN(夜) ¥3,000
平井庸一(G)、都築猛(P)、増田ひろみ(As)、蛭子健太郎(B)、竹下宗男(Dr)
…初めて夜の部に出演します。翌月曜も休日ですのでぜひ。

● 毎週金曜日 PM7:30
六本木 FIRST STAGE(03-3405-1910)
¥2,000(ドリンク付) 進行:平井庸一
…社会人中心の大人のジャム・セッションです。楽器は全て完備。管楽器の方はマウスピースだけ持ってきて参加可能です。熟練の人初心者も均等に演奏できます。

【ひらい・よういち】…ギター奏者/1970年東京生まれ。大学時代に高嶋宏にジャズ・ギターを師事する。キャバレーのハコバンでの修行を経てライブ活動を開始。使用楽器は、オールドのGibson ES-125とシャワードギター特製セミアコ・バリトンギター。

Jazz Today

NEW DISC INDEX

セント・オブ・サマー

シーン・オブ・ジャズ

Roving Spirits RKJ-2025 ¥2,500 (税込)
2006/7/5 Release



軽快なグループ、豊かなりリズム、それぞれのシーンで表現、J-Jazz シーンを代表する石井・大坂・安カ川による上質のライブ感が凝縮されたシーン・オブ・ジャズ・シリーズ。

01. Summertime / 02. A Felicidade / 03. Summer Night
04. The Island / 05. A Night in Tunisia / 06. The Summer Knows
07. Once Upon a Summertime / 08. Estate
09. Summer in Central Park / 10. Triste

石井彰 (pf)
大坂昌彦 (ds)
安カ川扶樹 (b)

バックナル

ガボール・ザボ

Skye MZCS-1100 ¥2,400 (税込)
2006/8/23 Release



来るべき時代を先取りした悲運のスイート・ジャズ・レーベル "SKYE" の記念すべきファースト・リリース作品。レーベル創始者の一人でもあるハンガリー出身の今は亡きギタリスト、ガボール・ザボが、ドノヴァンやバカラックをカバーしたアルバム。ガボール・ザボといえばサンタナの代表作『天の守護神』に収録されたヒット曲『ジブシー・クイーン』の作者としてロック・ファンにも知られているが、ジャズ・ギタリストとしてもインパルスなどに多くの秀作を残している。ギタリスト、道辺香津美も彼の信奉者のひとり。

01. スリー・キング・フィッシャー / 02. 恋は水色 / 03. ヴァレー・オブ・ドールのテーマ / 04. バッカナル / 05. サンシャイン・スーパーマン / 06. サム・ヴェルヴェット・モーニング / 07. 恋の面影 / 08. ザ・デイヴァイデッド・シディ

ガボール・ザボ (guitar) / ジム・スチュアート (guitar)
ハレ・ゴードン (percussion) / ジム・クルトナー (drums)
ルイス・カボック (bass)

ソーラー・ヒート

カル・ジェイダー

Skye MZCS-1101 ¥2,400 (税込)
2006/8/23 Release



クラブ・シーンをはじめ多くの若いリスナーに圧倒的な支持を得るヴィブラフォン・プレイヤー、カル・ジェイダーがブラジルを代表する名プレイヤー、ジョアン・ドナートをフィーチャーし、ゲイリー・マクファーランドのアレンジによるグルーブ感溢れるライト・テイスト・ジャズ。そのジョアン・ドナートの名曲『アマソナス』をはじめビーン・ジェントリーの『ビリー・ジョーの唄』、アンジェイ・ジョズの大ヒット曲『ネヴァー・マイ・ラヴ』など好選曲にも注目!

01. ビリー・ジョーの唄 / 02. ネヴァー・マイ・ラヴ / 03. フェリシダーデ / 04. マンボ・サンゴリア / 05. ヒア / 06. フライド・バナナ / 07. アマソナス / 08. ラ・パノバ / 09. アイ・オヴ・ザ・デヴァイル / 10. ソーラー・ヒート

カル・ジェイダー (vibes) / ジョアン・ドナート (organ)
チャック・レイニー (bass) / パレット (percussion)
ゲイリー・マクファーランド (vibes, arrangements)

アローン・トゥゲザー

かなさし庸子

Roving Spirits RKJ-2023 ¥2,800 (税込)
2006/8/23 Release



名伴奏で定評のある崎津健一と加藤真一を相手に選んでかなさし庸子 渾身の選曲。

01. Alone Together / 02. Scarborough Fair / 03. Well You Needn't
04. Beautiful Love / 05. Lazy Afternoon / 06. Summertime
07. The Peacocks / 08. Lonely Woman / 09. Round Midnight
10. African Flower / 11. Caravan / 12. Wild is the Wind / 13. Oblivion
14. Crystal Silence

かなさし庸子 (vocal)
崎津健一 (piano)
加藤真一 (bass)

ヴィーヴォ!

村上 寛

Roving Spirits RKJ-2024 ¥2,800 (税込)
2006/8/23 Release



超一流のグループで、日本のジャズを叩きつけた男がいる。数々の名盤を支えたドラマー村上寛が本気になった新録音!

01. JEALOUS FRODO / 02. BLACKTHORN BLUES / 03. TAMMY WALK
04. ELLA'S CHANT / 05. TOUCH WOOD / 06. DRAGGIN'
07. OUTRUNNER / 08. RIENA

村上寛 (Drums)
佐藤彦彦 (Piano)
加藤真一 (Bass)
峰厚介 (Tenor Sax)

スレイヴス

ゲイリー・マクファーランド

Skye MZCS-1102 ¥2,400 (税込)
2006/8/23 Release



社会派映画監督、ハーバート・J・ビバマンが1969年に制作した黒人奴隷をテーマにした問題作『スレイヴス』のオリジナル・サウンド・トラック・アルバムの世界初CD化。「蜜の味」をはじめ多くのヒット曲を作ったボビー・スコットのペンによる楽曲を SKYE RECORDS の主宰者、ゲイリー・マクファーランドによる緻密なアレンジ、人気ジャズ・ドラマー、グラディ・テイのビター&スイートなヴォーカルで綴った隠れた名作。

01. スレイヴス / 02. スレイヴス / 03. ミーティン・ハウス / 04. ブラック・ラバ / 05. アナザー・モーニング / 06. ピッキン・コットン / 07. ナイトウィンド / 08. アナザー・モーニング / 09. ピッキン・コットン / 10. ナイトウィンド

グラディ・テイ (vocal)
ゲイリー・マクファーランド (cond, arr.)
&オーケストラ

雲の上はいつも青空

Nachu (荒谷みつる / 阿部飛鳥)

Studio migmi MGSA-0003 ¥3,000 (税込)
2006/8/26 Release



アコースティックギターとフルートで繰り広げるインストルメンタルユニット。歌詞の無い楽器だけのシンプルな演奏で、言葉以上の感情や風景を描き出します。荒谷みつるのフィンガースタイルの演奏に、阿部飛鳥の軽快なフルートメロディをのせて、爽やかにリラックスした時間をお届けします。

01. Libertango / 02. プレリュード / 03. Departure / 04. 丘の上
05. Travelling Life / 06. 別れの曲~亡き女王のためのバヴァーズ
07. 赤とんぼ / 08. 雨の声 / 09. ラストノート / 10. 卒業写真
11. I miss you / 12. 風

荒谷みつる (guitar)
阿部飛鳥 (flute)

ジャスト・ナウ&ゼン

森園勝敏

Roving Spirits RKJ-6025 ¥1,980 (税込)
2006/8/23 Release



勢いに乗った森園のカバー&オリジナル集だ。究極のレア・アイテムがCDで復活!

01. Gimme Some Lovin' / 02. Lady Violette / 03. Love is Can
04. Some Kind of Love / 05. Paper Back Writer / 06. Give It Up
07. Untitled Love Song / 08. Nothing Could Ever Change Your Mind

森園勝敏 (Electric Guitar, Vocal) 野力奏一 (Electric Piano, Acoustic Piano, Prophet5, Mini Moog) / 伊藤広現 (Electric Bass)
高山純 (Drums) / マック清秋 (Percussion) / 茂木由多加 (Synthesizer & Computer) / 鈴木徹 (Drums) / スージー・キム (Vocal)
中村哲 (Electric Piano, Acoustic Piano, Tenor Sax, Mini Moog, Prophet 5, Hammond Organ) / 秋元良一 (Electric Bass) / 相良宗男 (Drums) / ジェイダ (Background Vocal) / 白尾泰久 (Alto Sax)

コズミック・シティ

デビッド・マッシューズ

Roving Spirits RKJ-6026 ¥1,980 (税込)
2006/8/23 Release



サンボーンを大フィーチャー! 80年代頭を飾るニューヨーク・フュージョンの熱い演奏が繰り広げられる。

01. Cosmic City / 02. Show Me How You Make It Sexy / 03. Lonely Promises / 04. Good Time / 05. First Blood / 06. American Road
07. I Don't Mean To Hurt You / 08. Special Delivery

デビッド・マッシューズ (elep)
デビッド・サンボーン (as)
マイク・マイニエリ (vib)
ジェフ・ミロノフ (ele-g, ac-g)
クリフ・カーター (key, synth, vo)
マーク・イーガン (ele-b)
アラン・シュワルツバウム (ds)
サミー・フィガロア (perc)
background vocal: Frank Floyd / Zachary Sanders / Babi Floyd

KOSAMOTA DE CHARLIE

かゆかわなつき

VME KSMT-0001 ¥1,800 (税込)
2006/9/1 Release



今の自分を残すべく自己のプロジェクト「Kosamota Project」を立ち上げ発表したセルフプロデュースアルバム「KOSAMOTA DE CHARLIE (コサモタでチャーリー)」本人によるサクセスの多量収録で、天才ベーシスト岡田治郎氏によるプログラミングからなるこのアルバムはジャズの巨匠チャーリー・パーカーの楽曲を題材にしつつも、全くジャンルにとらわれない斬新しい自由な発想の音楽で、まさにコサモタワールド。音がさまざまな景色を現れに連れて行ってくれる。

01. ティダ / 太陽 -Yardbird Suite- / Charlie Parker
02. ムーチョー -Moose The Mooche- / Charlie Parker
03. ドナドナリ -Donna Lee- / Charlie Parker
04. ちえるりりん / Kayukawa Natsumi
05. アンソニー -Anthropology- / Charlie Parker
06. TI TI -Chi Chi- / Charlie Parker
07. 鬼ごころし -Ornithology- / Charlie Parker
08. おつるぶるぶる -Scrapple From The Apple- / Charlie Parker
09. 小靴 -My Little Suede Shoes- / Charlie Parker
10. サントラ / Kayukawa Natsumi

かゆかわなつき (sax)

SEVEN DAYS RHAPSODY

Yuji Ohno & Lupintic Five

label bleu VPCG-84840 ¥2,500 (税込)
2006/9/6 Release



ルパン三世テレビスペシャル「セブンデイズラブソディ」オリジナル・サウンドトラック

ルパン三世「セブンデイズラブソディ」サントラ = Yuji Ohno & Lupintic Five セカンドアルバム
エンディングテーマ「ミシェル」(Feat. 加藤ミリヤ) 収録

01. THEME FROM LUPIN III / 02. JU M PIN / JIPPIN / 03. ミシェル (BOSSA ver) / 04. SUPER HERO / 05. HOLY BUT EASY / 06. COOL SAMBA / 07. CRAZY TUKUTUKU / 08. BOSSA DIAMANTE / 09. MAG NUM DANCE / 10. TRAP IN THE DARK / 11. LUPIN AU GO GO / 12. ミシェル (Feat. 加藤ミリヤ)

Yuji Ohno & Lupintic Five with Friends
大野雄二 (Pf/Epf) / 江藤 良人 (Dr) / 横山 昌之 (EbWB)
和泉 聡志 (G) / 松島 啓之 (TP) / 鈴木 央紹 (Tsx Sax)
村岡 達 (Asax/Bsax/Cla) / 竹内 直 (Tsx FL Bcl)
金子 雄太 (Hammond) / 大井 貴司 (Vib)
伊集加代子 (Chorus) / 佐々木久美 (Chorus) / 広谷順子 (Chorus)
加藤ミリヤ (Vocal) by the courtesy of Sony Music Records Inc.

ピン・ポイント

ロニー・キューバー

Roving Spirits RKJ-6027 ¥1,980 (税込)
2006/8/23 Release



みんなが待っていたキューバー最高傑作! サンボーン、ガッドも参加、極めつきの一枚だ。

01. Two Brothers / 02. On Green Dolphin Street / 03. Heavy Hang
04. Move It / 05. Snotty / 06. Pin Point / 07. Afro Cuber

ロニー・キューバー (bs)
デビッド・サンボーン (as)
ジョージ・ワディニアス (g)
ロブ・マウンジー (key)
ウイレ・リー (b)
スティーブ・ガッド (ds)
スティーブ・ソートン (perc)

ゼノフォニア

ボヤンZ(ズルフィカルバシッチ)

label bleu VACB-1006 ¥2,520 (税込)
2006/8/23 Release



バルカン伝統とジャズの融合。故郷を夢見る、二重国籍者二重国籍者のブルース。懐かしさと憂い、そして民族の民族の誇り。ボヤンZが描き出す新しい音楽の地図。

01. ULAZ / 02. ZEVEN / 03. WHEELS
04. BIGGS D / 05. ASHES TO ASHES / 06. PENDANT CE TEMPS, CHEZ LE GENERAL / 07. XENOS BLUES / 08. THE MOHCAN AND THE GREAT SPIRIT / 09. CD-ROM / 10. ULAZ

ボヤン・ズルフィカルバシッチ (ピアノ / フェンダーローズ)
レミ・ヴィニョーロ (ベース)
アリ・ホーニク (ドラムス 02.03.04.08.10)
ベン・ペロウスキ (ドラムス 01.05.06.07.09)
クラッセン・ルトカーノフ (カヴァル 01.09)

AXIS - ANOTHER REVOLVABLE THING Vol.1

高柳昌行

doubtmusic dmp-110 ¥2,310 (税込)
2006/8/20 Release



ニュー・ディレクション・ユニット
長らく廃盤だった高柳 NDU 初の CD 化! 1975 年 9 月 5 日 安田生命ホールでのライブ、パート 1。

01. FRAGMENT - II 漸次投射
02. FRAGMENT - III ハーカッション・ソロ
03. FRAGMENT - VI 集団投射

高柳昌行 (guitar)
森利治 (reeds)
井野信義 (bass/cello)
山崎弘 (percussion)

AXIS - ANOTHER REVOLVABLE THING Vol.2

高柳昌行

doubtmusic dmp-111 ¥2,310 (税込)
2006/8/20 Release



ニュー・ディレクション・ユニット
長らく廃盤だった高柳 NDU 初の CD 化! 1975 年 9 月 5 日 安田生命ホールでのライブ、パート 2。

01. FRAGMENT - I 漸次投射
02. FRAGMENT - IV 集団投射
03. FRAGMENT - V 集団投射

高柳昌行 (guitar)
森利治 (reeds)
井野信義 (bass/cello)
山崎弘 (percussion)

marble

Cian BALOON RECORDS BALR-1 ¥1,800 (税込) 2006/7/26 Release



Cian(シアン)が2006年夏にお届けするファーストミニアルバム。プロデュースには山本恭久を迎え、おおはた雄一、ヤマカミヒトミ、島裕介、早川哲也などの実力派プレイヤーのバックアップによって作り出されたサウンドは、ジャジーでオーガニックな余韻を残し、聴く人を包み込む。光と影のアカースティック・ソウル。

01. 蝶のロマンス
02. 蝶のキニーネ
03. 雨はピロイド
04. Green
05. FLOW
06. いたい夜

Annekei

ANNEKEI ZAIN RECORDS ZACAA-5001 ¥2,300 (税込) 2006/9/13 Release



デンマーク出身、現在はニューヨークに住む24歳の女性シンガー。アンナケイの日本デビュー盤。DIMENSION等JAZZFUSIONシーンを代表するミュージシャンがレコーディングに参加し、可憐な容姿とソフトなボーカルが相まって心安らく時間を与えてくれる。

01. TAXI DRIVER / 02. BABY YOU / 03. N.Y.C. / 04. BROTHER
05. WITH OPEN ARMS / 06. DIAMOND SHELL
07. BULL FIGHT / 08. THE VOICE WITHIN / 09. PARADISE
10. HOLD ON / 11. KEEP ON GOING / 12. CLOSE YOUR EYES
13. SHIKI ~四季~

アンナケイ (vocal, piano) / 増崎孝司 (guitar)
勝田一樹 (alto sax, soprano sax) / 小野塚晃 (piano)
納浩一 (bass) / 佐々木史郎 (trumpet)

野心家の正常位

ブリキサーカス KIMASU RECORD KIMASU-001 ¥3,000 (税込) 2006/6/16 Release



どこか懐かし、そして怪しげなレビューあるいは古き良きサーカスの雰囲気を感じつつも、ミクスチャーした異端なバンドブリキサーカス

01. 八月のサントベテルブルグ
02. オーバーテックノロジー
03. 花道
04. クレス SEX
05. ハイリスクハイリターン
06. パッパカパー
07. 盲目の蛇
08. ロンビーロンビー
09. オッターソイ
10. 踊る月・赤いクツ

フェダイン1

フェダイン トランジスターレコード NIR-4 ¥2,100 (税込) 2006/6/2 Release




伝説のフリージャズトリオ「フェダイン」の名盤中の名盤ファースト。衝撃の完全オリジナルの復刻盤です。

01. スネークハンド
02. Funny Life
03. King (おーさま)
04. ビーマン ナス イタメ
05. あふりか
06. Let's talk about a little home
07. フアルンバ
08. おまけ

大沼志朗 (ds)
川下直広 (ts, ss, acl, 笛)
不破大輔 (b)

夢の引用 / Quotation of Dream ~ Love and Soul of Toru Takemitsu

鈴木大介、ブランドン・ロス、ツトム・タケイシ intoxicate records INTD-1009 ¥2,600 (税込) 2006/9/6 Release



とてもノスタルジックなメロディーが、今、巻に流れている音楽とは違う時間の感覚で聞こえてきたり、狂った果実のように、ある時代の日本の、とぎすまされた音、今よりもっと人間の本能とか肉體とかから生まれてくる音楽だったり…。そしてそれらは全て、氾濫している音楽がなんとなく聞こえてくるものではなく、一人ひとりの体や心に浸透してくるものなのでは…。(武満真樹)

01. 太平洋ひとりぼっち / 02. ○と△の歌 / 03. 伊豆の踊子
04. ヒロシマという名の少年 / 05. 素晴らしい悪女
06. あこがれ / 07. 狂った果実 / 08. 日本の青春

鈴木大介 (g)
ブランドン・ロス (g, harp, e-bow, vo)
ツトム・タケイシ (b)

フリーダム・サンセット

V.A. フリーダム・サンセット TERDCFS1 ¥2,000 (税込) 2006/8/4 Release



今回は過去の出演者を収録したコンピレーションCD「Freedom Sunset」のリリース・パーティー！海から帰ったあとのまったりとした時間…。そんな時間に流れる「アタサーフアルバム」のサーフムービー「sprout」のサウンドを彷彿とさせる湘南のサウンドスケープ。夏の思い出が蘇るようなオーガニックで優しくてちょっとせつないトラックを集めました。

01. omlete dub beach(GoRo) / 02. Circles(novo tempo) / 03. The Lightning Glow Of The Sunset(bossadub) / 04. 五月雨 (CALM)
05. Lagrimas del paraíso(Quiet Birth aka shiba) / 06. 潮騒 (Ring Of Method) / 07. FLY from EAST(AURORA) / 08. その隅は私の中に沈む (no.9) / 09. kite knows everything(heco-reco) / 10. 蟹気楼 (poodles) / 11. Pueta del sol(Freedom Sunset)(Quiet Birth aka shiba)

フェダイン2

フェダイン トランジスターレコード NIR-5 ¥2,100 (税込) 2006/6/2 Release



待望の名盤復刻。伝説のフリージャズトリオ「フェダイン」の貴重な初期名盤です。

01. 海「UMI」
02. ビーマン ナス イタメ
03. MILE & HALF

大沼志朗 (ds)
川下直広 (ts, ss, acl, 笛)
不破大輔 (b)

フェダイン3

フェダイン トランジスターレコード NIR-6 ¥2,100 (税込) 2006/6/2 Release



入手困難だったサードを完全オリジナル盤で復刻。伝説のフリージャズトリオ「フェダイン」の貴重な初期名盤です。

01. BOW ~~~~
02. 風に吹かれて
03. DAVADAVA DABA

大沼志朗 (ds)
川下直広 (ts, ss, acl, 笛)
不破大輔 (b)

P.S. I Forgot

naomi & goro On The Beach Records OBCB-0009 ¥2,100 (税込) 2006/7/5 Release



一ボサノバの優しい時間ー
小鳥のさえずる日曜日。美しい日差し向こうに優しいメロディーが流れる。naomi&goroのボサノバは休日の音楽です。待望の2ndはボサノバミュージックの持つ、シンプルで繊細な美しさや彩りを改めて教えてくれるちょっぴり大人でオシャレな1枚!

01. Valsa da Bastille / 02. Ran into Bookstore / 03. No Return (P.S. I Forgot version) / 04. Walking / 05. Cafe / 06. ELA E CARIOCA / 07. GE NTE / 08. AVARANDADO / 09. Song for SENNA (P.S. I Forgot version)
10. 夜明けの歌

パトリック・ヌジェ (acc) / 徳沢青弦 (vc)
スティーブ・サククス (sax) / 山上一美 (sax) / 中島ノブユキ (pf)
一本茂樹 (b) / 池長一美 (ds)

ダブアイヌ・デラックス

オキ チカル・スタジオ CKR-0111 ¥2,300 (税込) 2006/7/16 Release



アイヌのトンコリ奏者・OKI 本人のミックスによる人気コンセプト・アルバム『ダブアイヌ』の続編が、強力なゲストを迎えたデラックス盤になって再登場。愛がなければDUBじゃない! OKIのアイヌ〜ダブ・トライアル第2弾。

01. ダブ・セレナーデ / 02. ウタリ feat. Fania / 03. ショーマニック・ダブ / 04. ダブ・アロー feat. Hirohisa / 05. ハンロー・ダブ
06. サンマヒスタ・ダブ / 07. コシ・トゥリリ・ダブ feat. 沼澤尚
08. ニンジャ・ドラム

Fania (from Senegal/France)
沼澤尚 (シアターブルック / Sun Paulo)
床絵美 / Hirohisa (Dancing Stone/Stoned Rockers)
山北紀彦・Masato (NDANA)

わたしの皇帝陛下

ロサル 大洋レコード TAIYO-0002 ¥2,500 (税込) 2006/6/25 Release




愛の生活、日常、音楽観・・・フェミニンな視点で描かれた幻想的な世界。メランコリックに、感受性豊かに綴られた旋律とアナログ感に満ちた繊細なタッチのサウンド。プエノス・アイレス発。世界基準のアカースティック・ポップ!

01. INTERRUPTOR / 02. NOS ENCONTRAMOS
03. ABURRIDO Y PREDECIBLE / 04. LOS 90 / 05. JUNIN
06. REMERAS / 07. PERDON
08. ROGAR / 09. YO SOY YO / 10. MECHI
11. BOMBON REMIX ー日本盤ボーナス・トラック
+ Una Cancion ー日本盤 CD-EXTRA ビデオ・クリップ

やらないが できないことになってゆく

灰野敬二 P.S.F. レコーズ PSFD-8024 ¥2,940 (税込) 2006/8/10 Release



灰野敬二、久々のギター、ヴォーカル、でのソロ・アルバム。ここ2年ほど、ガット・ギター、パーカッション、デジタル・テルミン、津軽三味線やシャトルとのデュオ等々のリリースが続いたので、熱心なファンの間からヴォーカル・アルバムが要望が強く出ていました。このアルバムでは、淡々と静かに、曲によっては荘厳な雰囲気をも醸し出しています。あの名作「慈」(PSFD-23)を、髣髴とさせる。後世に残るヴォーカル・アルバムとなるのではと思います。

トロピカル・マリンバ

パラフォン・マリンバ・アンサンブル RESPECT RECORD RES-111 ¥2,415 (税込) 2006/8/2 Release



深い森で森林浴をしている心地よさ、アフリカ産マリンバ「パラフォン」が奏でる豊かなアンサンブルをお楽しみ下さい。

01. アイ・オールレディ・ハウ・ア・ハズバンド
02. ナモ
03. カデラ
04. タイレヴァ
05. テメリーナ
06. アマト
07. ニムティム
08. マンジャン・パンズ

フレンチ・カフェ・ミュージック

パリ・ミュゼット RESPECT RECORD RES-112 ¥2,500 (税込) 2006/9/13 Release




パリから届いたアコーディオンの調べー。今夜一杯の美味しいワインと踊りを楽しみたい、そんなパリの人々の思いが伝わってきます。

01. アンニー・ゼット / 02. 甘い喜び / 03. チャイニーズ・ワルツ
04. アコーディオン / 05. パリ・ミュゼット / 06. ナボリのそよ風
07. ラ・ラフィーヌ / 08. マルゴのワルツ / 09. たそがれのメロディ
10. ダンスホールが終わった後に / 11. 指5 本分の水 / 12. ナニー
13. イタリア女 / 14. 遊格子のワルツ / 15. ジェルメーヌ / 16. 秋風
17. 甘い思い / 18. 真実のミュゼット・ワルツ / 19. パッション
20. モントーパンの炎

侵蝕 (エクリプス)

高柳昌行 P.S.F. レコーズ ISKRA-001 ¥2,940 (税込) 2006/8/20 Release



長い間行方不明だった、幻の名盤「侵蝕」のマスターテープが奇跡的に発見され、ついにCD化! 完璧にオリジナルどおりに(CDナンバーも)再現した紙ジャケットです。

高柳昌行 (g)
森剣治 (as/fl/recorder)
井野信義 (b)
山崎弘 (ds, per)

Hello!

VOTOM daiz records DZCD-0018 ¥2,000 (税込) 2006/8/30 Release



新鋭コンポーザー・渡辺剛によるソロ・プロジェクト VOTOM 始動。東京から世界へと放つ音楽の種。Virus Of Tokyo Open Music というコンセプトのもと、もうグチャグチャで衝撃的なグルーヴがここに完成!!

01. Water Color
02. Forward Rock
03. 5th Element
04. Cake Mid Ash
05. Wall Flower
06. Hello! Grind Hippies
07. Happy?
08. Sufferer
09. Resonant Jam

ボトム: 渡辺剛

Sara Smile
市原ひかり
 ポニーキャニオン PCCY-60003 ¥3,000(税込)
 SACD(Hybrid)2006/9/6 Release



Nice Swing, Nice Groovel
 ビーター・ワシントン、ルイス・ナッシュ、ドミニク・ファリナッ
 チなど名うてのミュージシャンたちを相手に、これぞジャズ!!
 01. Cleopatra's Dream / 02. Fragile / 03. Blue Prelude / 04. It Could
 Happen To You / 05. I've Got It / 06. Sara Smile / 07. Golden Earrings
 08. Intro / 09. Close To You

Arranged by Hikari Ichihara (2,4,5,8,9) / Adam Birnbaum (1,3,7)
 Dominick Farinacci (6)

Hikari Ichihara (Trumpet & Flugelhorn)
 Adam Birnbaum (Piano)
 Peter Washington (Bass)
 Lewis Nash (Drums)
 Dominick Farinacci (Trumpet)
 Grant Stewart (Tenor Saxophone)

日本のジャズ-SAMURAI SPIRIT-
PEZ
 ROADRUNNER RECORDS RRCA-21027 ¥3,000(税込)
 2006/7/19 Release



遂に PEZ 初の COVER ALBUM が完成!
 これぞ「日本の名曲」といわれる 12 曲を PEZ にしかできない
 形で表現!
 01. 用心棒 / 02. 鈴懸の径 / 03. 銀座カンカン娘 / 04. 雪国
 05. どんたく / 06. おもちゃのチャチャチャ / 07. ソーラン節
 08. ともだち / 09. 小春おぼさん / 10. 花 / 11. みずいろの雨
 12. また逢う日まで

Ohyama "B.M.W." Wataru (Trumpet)
 Kadota "JAW" Kousuke (Sax)
 Nirehara Masahiro (Wood Bass)
 航 (Drums)
 ヒイズミマサユキ (Keyboard)

恋☆さざなみ慕情
原みどり
 WONDERR records HMCD-0001 ¥1,800(税込)
 2006/10/20 Release



初代スパンクハッピーの原みどりが、亡き父に捧げる昭和 JAZZ &
 スタンダード名作決選ワンダー5 曲集☆松本治、大友良英、ホ
 ビー神山をアレンジャーに迎え、渋谷毅ら他、超一流本格派
 JAZZ ミュージシャンらと、ビッグバンドと、豪華一発録音ミ
 ニアルバム!
 01. 月光燭千金 / 02. テネシーワルツ / 03. ジャスト・ワン・オブ
 ソーズ・シングス / 04. 山中節 / 05. クライ・ミー・ア・リヴァー

演奏：原みどりとワンダー5
 ワンダー5：
 松本治 (Tb) / 西村浩二 (Tp) / 石川広行 (Tp) / 津上研太 (A-sax)
 松風純一 (Alt-sax/B-sax) / 相内昭徳 (tb) / 佐藤葉 (tub)
 渋谷毅 (piano) / 外山明 (drum) / 水谷浩章 (A-bass) 大友良英 (guitar)
 ホッピー神山 (piano, bells, Gram-pot) / 工藤美穂 (Violin)
 定村由紀子 (Violin) / 小原直子 (Cell)

夜のためいき
松尾和子
 THINK! THCD-022 ¥2,520(税込)
 2006/7/21 Release



和モノ・マニア垂涎の激レア盤遂に CD 化!! 大女優、松尾
 和子の幻のジャズ・ヴォーカル作品!!
 01. いそぎのテーマ / 02. 思い出のサンフランシスコ / 03. い
 としのヴァレンタイン / 04. あなたと夜と音楽と / 05. セ・シ
 ボン / 06. 蜜の味 / 07. ゴールデン・イヤリングス / 08. イエスタ
 デイ / 09. イノチマの娘 / 10. 聖降るアラバマ / 11. フライ・ミー
 トゥー・ザ・ムーン / 12. ラブ・ミー・オア・リーブ・ミー

松尾和子 (vo)
 小原重徳とブルーコースト (1)(4)(6)(11)
 八木正生クインテット (3)(5)(9)(12)

真夜中の恋のムード〜お休み前の恋人に〜+2
水谷良重 & 白木秀雄クインテット
 THINK! THCD-023 ¥2,520(税込)
 2006/7/21 Release



和ジャズ史上最大の豪華カップル、水谷良重 (現・水谷八
 重子) と白木秀雄の熱愛共演盤、ハスキー・ヴォイス、ホ
 色気ジャケ、日本語 & 英語チャンボンの歌詞、すべて最高!
 レア曲 2 曲追加。(原田和典)
 01. ティチ・ミー・トゥナイト / 02. やさしく愛してね / 03. どう
 しておしゃべりばかりしているの / 04. 貴方が一番素敵 / 05. 恋
 の気分 / 06. あの人が忘れられなくて / 07. いとしのヴァレ
 ンタイン / 08. 浮気は止めた / 09. もう我まん出来なくて / 10. メ
 ドレー: 夢で逢いましょう〜お休みなさいといとし / 11. ハッ
 シャ・ハイ / 12. ディー・クロケットの歌

水谷良重 (vo), 白木秀雄クインテット

ミッドナイト・ジャズ・セッション
ジミー荒木
 THINK! THCD-024 ¥2,520(税込)
 2006/7/21 Release



和ジャズ・コレクターが挙って探しているレア盤のひとつ。
 我が国初の多重録音作品という日本レコード史上におい
 ても重要な作品!!
 01. モース・コースト / 02. 満月 / 03. ブロークン・リズム / 04. ロ
 ンドンの霧の日 / 05. トゥー・プラーズ / 06. 恋したみたいだ
 07. ハーレム・ノクターン / 08. プルース・フォー・パッド / 09. 僕の
 気持ちを知らないか / 10. 希望がわいた / 11. ドリム
 12. A 列車で行こう 13. 巴里の空の下

ジミー荒木 (asp) / 小野満 (b) / ジョージ川口 (ds)

Apéritif de Jazz compiled by JJazz.Net
V.A.
 ewe EWCA-0001 ¥2,000(税込)
 2006/8/30 Release



音楽好きのための、ちょっと知的な好奇心を刺激するジャズコンピ。
 音楽を聴く喜びを増進させる。
 気分を盛り上げるそんなコンピレーションです。

01. ワルツ・フォー・デビー (渡辺香津美) / 02. くり返される
 こと (大石宇トリオ) / 03. Falling (中島ノブユキ) / 04. zoe &
 angle (sigh boat) / 05. Morning (青木タイセイ) / 06. Arigatou Goz
 aimasu (Hiroshi Imade) / 07. Reminiscence (佐藤 允彦) / 08. Good
 night honey (Warehouse) / 09. Better Times (Combo Piano) / 10.
 Sil Van Bel (Kasper Tranberg) / 11. Lala (橋本一子 Ub-X) / 12. tra
 nscendental pool (Guiletta Machine) / 13. Closing Velvets (南 博)
 14. Amazing (Akira Ishii) / 15. The Days Of Wine And Roses (Makoto
 Nakamura) / 16. ラウンジ・タイム #3 (堀内成典)

Mo' Bop III
渡辺香津美 New Electric Trio
 ewe EWSA-0126 ¥2,520(税込)
 CD/SACD ハイブリッド 2006/7/21 Release



渡辺香津美ニューエレクトリックトリオの第3弾は、リチャード・
 ボナ (b)、オラシオ・エル・ネグロ・エルナンデス (ds) の不
 動のリズムセクションに加え、ブラジリアン・パーカッション
 の鬼才、シロ・パプティスタをゲストに迎えた NY 録音。日本 (香
 津美) = カメルーン (ボナ) = キューバ (オラシオ) のトリオに
 ブラジル (シロ) を加えた世界編成のカルテットによる香津美オ
 リジナル曲「エンボス」で幕を開ける本作はどきどきでも自由に
 突き抜ける。開放感に溢れた香津美の「エレキ」と超一流ミュ
 ジシャンによる強力なグループが堪能出来る仕上がり。全方
 位的に完成度を上げる Mo' Bop トリオに要注目!
 01. Emboss / 02. Somewhere In Time / 03. Tiger Beam / 04. Lawns
 05. Dragon's Secret / 06. Good Fellows / 07. Infancia / 08. Stolen
 Moments / 09. Manhattan Flú Dance
 Kazumi Watanabe (EG, AG, Guitar Synthesizer) / Richard Bona (B)
 Horacio "El Negro" Hernandez (DS)
 Guest Musician: Cyro Baptista (Percussion on trk 01, 02, 07 & 09)
 ジミー荒木 (asp) / 小野満 (b) / ジョージ川口 (ds)

矢野沙織 with Dizzy Gillespie All Stars!
Groovin' High 全国 Tour



メンバー 矢野沙織 (Alto Saxophone)
 Randy Brecker (Trumpet)
 James Moody (Tenor Saxophone)
 Slide Hampton (Trombone & All Arrangements)
 今村 正明 (Piano)
 上村 信 (Bass)
 小松 伸之 (Drums)

日時 10月30日 (月)
 場所 浜離宮朝日ホール
 【都営大江戸線築地市場駅 A2 出口すぐ / 日比谷線築
 地駅 2 番出口・東銀座駅 6 番出口 (徒歩約 8 分)】
 開場 18:30
 開演 19:00
 料金 5,500 円 (座席指定) ※未就学児童入場不可
 主催 朝日新聞社 / テレビ朝日
 後援 コロムビアミュージックエンタテインメント
 協力 www.jjazz.net / 月刊 Jazz Today
 企画制作 朝日新聞社 / イープラス / Commodo Depot Inc.

発売日 9月3日 (日)
 発売所 イープラス <http://eplus.jp/saori/> (パソコン & 携帯)
 朝日ホールチケットセンター 03-3267-9990 (月曜～土曜午前 10～18 時)
 チケットぴあ 0570-02-9999 / 0570-02-9966 (Pコード未定)
 お問い合わせ 公演事務局 (イープラス) 0570-06-9939
 オフィシャルホームページ <http://www.commodo jazz.com/saori/>

清水靖晃 & サクソフォネッツ
あつという間

出演 清水靖晃 & サクソフォネッツ Yasuki Shimizu & Saxophonettes
 メンバー 清水靖晃 (tenor saxophone)
 江川良子、林田祐和 (tenor/soprano saxophone)
 鈴木広志、東 涼太 (baritone/soprano saxophone)

ゲスト 康本雅子 (dance)
 日時 9月26日 (火)
 場所 六本木 スーパーデラックス Super Deluxe
 港区西麻布 3-1-25 B1 Tel: 03-5412-0515

開場 19:00
 開演 19:30
 チケット発売中
 料金 全席自由 前売 4,000 円 / 当日 4,500 円
 ※当日入場時に別途ドリンク代 700 円をいただきます。
 発売所 チケットぴあ: 0570-02-9999 (Pコード: 235-061)
 イープラス: <http://eplus.jp>
 カンパセッション: 03-5280-9996 (平日 10:00～19:00)
 カンパセッション Tel: 03-5280-9996 (平日 10:00～19:00)
<http://www.conversation.co.jp>
 Super Deluxe Tel: 03-5412-0515

喜多直毅
New ALBUM 発売記念ライブ

メンバー 喜多直毅 (Vln)

宮野弘紀 / 伊藤芳輝 / 鬼怒無月 (Guitar)
 黒田京子 / 林正樹 (Piano)
 Christopher Hardy / 海沼正利 (Percussion)
 佐藤芳明 (Accordion)
 常味裕司 (Oud)
 さがゆき (Vocal)
 吉野弘志 (Bass)

日時 8月24日 (木)
 場所 @六本木スイートベジブル <http://stb139.co.jp/>
 開場 18:00
 開演 20:00
 料金 全席自由 5,000 円 (+オーダー)
 ご予約 STB: 03-5474-0139
 チケットぴあ: 0570-02-9999 (Pコード: 231-798)
 チケットぴあ: 0570-02-9999 (Pコード: 231-798)
 制作 音楽事務所アテム <http://www.atem-music.com/>
 ※当公演の詳細はコチラを御覧下さい。 <http://www.atem-music.com/kita/live.htm>

東京 JAZZ 2006 9月2日・3日 DAY 12:30 ～ NIGHT 18:30 ～

SPECIAL GUESTS
◆渡辺貞夫
 【9/3 夜 / ザ・グレイト・ジャズ・トリオ by ハンク・ジョーンズ
 プログラムのスペシャルゲストとして決定】
◆フランク・マッコム
 【9/3 夜 / マーカス・ミラープログラムのスペシャルゲストとして決定】
◆トロンハイム・ジャズオーケストラ
 【9/2 夜 / チック・コリアとの共演が決定】

■ 9/2日(土) ■
DAY AROUND THE GLOBE
 日本、キューバ、オーストラリアなど世界の音楽が「国境を越えて」東京 JAZZ のステージで熱く、競演!
 出演 ■レ・フレール (OPENING ACT)
 ■波さ知らズオーケストラ
 ■～東京 JAZZ PACIFICALL STARS VOL.1～
 ジャパン・オーストラリア・ジャズオーケストラ
 <クリヤ・マコト、キャメロン・ディエル、太田剣、早川哲也、大坂昌彦、
 フィル・スレーター、マット・キーガン、ジェームズ・グリーンング
 featuring 寺井尚子>
 ■ロス・バン・パン

NIGHT PIANO NIGHT
 「世代を超えて」トップピアニストが出演。世界一豪華なピアノナイト。
 出演 ■オースティン・ペラルタ・トリオ
 ■上原ひろみ
 ■ザ・グレイト・ジャズ・トリオ by ハンク・ジョーンズ
 (with ジョン・パティトゥッチ and オマー・ハキム)
 ■チック・コリア & トロンハイム・ジャズオーケストラ

■ 9/3日(日) ■
DAY BLUE NOTE TOKYO meet TOKYO JAZZ2006
 豪華ラインアップで東京国際フォーラムが巨大なジャズクラブに。
 出演 ■小沼ようすけ & 太田剣 (OPENING ACT)
 ■ジョイス・ウィズ・スペシャルゲスト・ロベルト・メネスカル
 ■デイヴ・コス
 ■ラリー・カールトン・ウィズ・スペシャルゲスト・ロベン・フォード
 ■インコグニート

NIGHT ENCOUNTERS
 東京 JAZZ でしかありえない世界のトップミュージシャン同士の夢の邂逅を実現。
 出演 ■マーカス・ミラー & スペシャルゲスト フランク・マッコム
 ■チック・コリア meets 上原ひろみ
 ■ザ・グレイト・ジャズ・トリオ by ハンク・ジョーンズ
 スペシャルゲスト 渡辺貞夫 (with ジョン・パティトゥッチ and オマー・ハキム)

日時 9月2日 (土)・3日 (日)
 星の部 11:30 開場 12:30 開演
 夜の部 17:30 開場 18:30 開演

場所 東京国際フォーラム ホールA (東京都千代田区丸の内 3-5-1)
 料金 S 席 / 8,500 円 A 席 / 6,500 円
 S 席 1 日通し券 / 16,000 円 (全席指定、税込)
 発売日 9月3日 (日)
 発売所 キョードー東京 03-3498-9999
 電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 231-955)
 9 / 2 通し券 (Pコード 780-826)
 9 / 3 通し券 (Pコード 780-827)
 ローンチケット 0570-08-4003 (Lコード 39419)
 CN プレイガイド 0570-08-9999
 イープラス <http://eplus.jp/tokyo-jazz2006/>
 エキサイトチケット <http://ticket.excite.co.jp>
 ブルーノート東京 03-5485-0088 (店頭販売のみ)
 お問い合わせ ハローダイヤル 03-5777-8600
オフィシャルホームページ <http://www.tokyo-jazz.com>

Brandon Ross、鈴木大介、ツトム・タケイシ

Hakujuギター・フェスタ2006 第1回：武満徹へのオマージュ

出演 鈴木大介 (g) ブランドン・ロス (g,vo) ツトム タケイシ (b)
 日時 8/26 (土) 18:00 開演
 場所 白寿ホール
 料金 5,000円 (全席指定) 税込
 お問い合わせ 白寿ホール Tel.03-5478-8700 10:00-18:00 (日・月・祝・休館日を除く)
http://www.hakujuhall.jp/top/schedule_j/schedule200608.html

Love and Soul of Toru Takemitsu

演奏曲目 太平洋ひとりぼっち/日本の青春/伊豆の踊り子/あこがれ/狂った果実 他
 出演 鈴木大介 (g) ブランドン・ロス (g,vo) ツトム タケイシ (b)
 ゲスト 後藤龍伸 (vn)
 日時 8/27 (日) 19:00 開演
 場所 愛知県芸術劇場 中リハーサル室
 料金 一般前売: ¥3,500 (税込) 学生前売: ¥1,500 (税込)
 当日各¥500増 全席自由
 お問い合わせ ミュージック・ステーション Tel.0584-89-6883
http://search-event.aac.pref.aichi.jp/event_card_kouen.php

サイトウ・キネン・フェスティバル松本2006

出演 荘村清志、鈴木大介 (g) ブランドン・ロス (g,vo) ツトム・タケイシ (b)
 岩佐和弘 (fl) 上村昇 (vc) 竹島悟史 (perc) 他
 サイトウ・キネン・オーケストラメンバー
 日時 8/30 (水) 19:00 開演
 場所 ザ・ハーモニーホール
 料金 4,000円 (全席指定) 税込
 お問い合わせ サイトウ・キネン・フェスティバル松本実行委員会 TEL: 0263-39-0001
<http://www.saito-kinen.com/j/program/takemitsu/>

東京 JAZZ2006 MARUNOUCHI JAZZ CIRCUIT

ネオ屋台村 presents 東京 JAZZ Luncetime Session Vol.4
 出演 randon Ross、鈴木大介、ツトム・タケイシ
 スペシャルゲスト: 上妻宏光
 日時 8月31日 (木)
 ネオ屋台村営業時間 12:00 ~ 13:00
 (showtime 12:20 ~) 雨天決行
 場所 東京国際フォーラム地上広場
 (東京都千代田区丸の内 3-5-1) ツトム・タケイシ
 料金 無料 (ご飲食代別) 当日会場までお越しください。

BRANDON ROSS & STOMU TAKEISHI DUO

出演 Brandon Ross (g,vo), Stomu Takeishi (b)
 日時 9/2 (土) 19:00 & 21:30
 場所 COTTON CLUB | コットンクラブ
 〒100-6402
 東京都千代田区丸の内 2-7-3 東京ビル 3F
 CALL.03-3215-1555(11:00AM-11:00PM)
<http://www.cottonclubjapan.co.jp/>
 料金 CHARGE 4,725円

OKI DUB AINU BAND

Quiet Hill Festival

出演 Goma & Jungle Rhythm Section/OKI Dub Ainu Band/
 Flying Rhythms/Poodles/
 たけしこうじ (土生 Tico 剛 & Breath Mark) /
 Keison/ h anauta/TSUJI KOSUKE
 日時 8月19日 (土)
 場所 静岡県立浜北森林公園
 料金 前売り 5000円 / 当日 6000円
 (チケットは 1000 枚限定) ※小学生以下無料
 お問い合わせ ゆるり 053-456-1580 qhf@yuruli.com OKI
 チケットのご購入方法等の詳細は、Quiet Hill Festival のサイトで確認下さい。
<http://yuruli.com/qhf/>

ブリキサーカス



UrBANGUILD Live

日時 9月14日 (木) 20:00 開演
 場所 UrBANGUILD (三条木屋町下るニュー京都ビル 3F)
 料金 2000円 1drink 付き
 お問い合わせ UrBANGUILD tel:075-212-1125

ブリキサーカス

KILA & OKI

KILA & OKI

出演 KILA, OKI guest: ドン・マツオ (ズボンズ)
 日時 9月24日 (日) (木) 20:00 開演
 場所 渋谷/duo music exchange 料金 5000円 (1オーダー別 / 全自由 / 税込)
 発売所 チケットぴあ 0570-02-9999[Pコード 233-891]
 お問い合わせ プラントクン 03-3498-2881

二階堂和美

クラブ・クアトロ Live

出演 二階堂和美、SAKEROCK、渋谷毅、テニスコーツ
 D J ECD
 日時 9月14日 (木) 18:00 開場 19:00 開演
 場所 東京・渋谷クラブ・クアトロ
 料金 前売: 2,800円 / 当日 3,300円 近日発売開始

シャングリラ Live

出演 二階堂和美、赤犬、mamal milk、渋谷毅
 日時 9月17日 (日) 17:00 開場 18:00 開演
 場所 大阪・梅田シャングリラ
 料金 前売: 2,500円 / 当日 3,000円
 発売所 チケットぴあ 0570-02-9999[Pコード 234-452] ローソン (Lコード: 53048)
 お問い合わせ smash west 06-6535-5569



二階堂和美

Jazz Today 06

10/23(月)~10/26(木) @STB139 スイートペイジ Live

■ 10/23日(月)菊地成孔クインテット・ライブ・ダブ■
 出演 菊地成孔クインテット・ライブ・ダブ
 <菊地成孔 (sax,vo) 坪口昌恭 (pf) 菊地雅晃 (b)
 藤井信雄 (ds) バードン木村 (live PA) >
 時間 18:00 開場 19:30 開演
 料金 charge: 6,300円 (税込)

■ 10/24日(火)中村真 / 中島ノブユキ■

出演 中村真トリオ<中村真 (pf) 中村新太郎 (b) 小前賢吾 (ds)>
 中島ノブユキ<中島ノブユキ (pf) 鈴木正人 (b)
 北村聡 (bandoneon)、伊藤ゴロー (g)、
 弦楽三重奏、ゲスト: 林夕紀子 (vo) >
 時間 18:00 開場 19:30 開演
 料金 charge: 5,000円 (税込)

■ 10/25日(水)BOZO/橋本一子 Ub-X ■

出演 BOZO < 津上研太 (sax) 南博 (pf) 水谷浩章 (b) 外山明 (ds) >
 橋本一子 Ub-X < 橋本一子 (pf,vo) 井野信義 (b) 藤本敦夫 (ds) >
 時間 18:00 開場 19:30 開演
 料金 charge: 5,000円 (税込)

■ 10/26日(木)渡辺香津美■

出演 渡辺香津美 (g) ほか
 時間 18:00 開場 20:00 開演
 料金 charge: 6,300円 (税込)

発売所 ローソンチケット tel:0570-000-777 チケットぴあ tel:0570-02-9999
 お問い合わせ STB 139 tel:03-5474-0139 (月~土 11:00AM~8:00PM)

Live Info

- 8/18 (金) 白井康浩 (g) 鈴木茂流 (永く持続音)
 高円寺 GOODMAN start 20:00 料金 1,000円 + drink
<http://apaches.hp.infoseek.co.jp/goodman/>
- 8/21 (月) 高岡大祐 (tuba) 白井康浩 (g) 鈴木茂流 (永く持続音)
 名古屋なんや tel:052-762-9289 start 19:00 料金 2,000円 + order
- 8/27 (日) OKIDOKI
 蒲郡 OLD FOSSIL tel:0533-67-4626 start 19:00/21:30 2500円 入れ替え制
<http://www.old-fossil.com/>
- 8/30 (水) 波さちびーズ + 白井康浩 (g)
 名古屋 58 月 tel:052-834-3358 open 18:00 start 19:30
 料金 前売り ¥3,000 当日 ¥3,500 + order
<http://www.58s.jp/>
- 9/04 (月) 波さ知らズ名古屋オーケストラ
 名古屋 CLUB UP-SET tel:052-763-5439
 open 18:30 start 19:00 料金 前売り 3,500円 当日 4,000円 drink 別 /
- 9/13 (水) 沖至 (tp) 小野良子 (as) 照喜名俊典 (tb,vo) 白井康浩 (g) 近藤久峰 (ds) 鈴木茂流 (b)
 Tokuzo tel:052-733-3709
 open 18:00 start 19:00 料金 前売り 2,800円 当日 3,000円 + order

The live line!

9月の新宿ピットイン [夜の部]

開場 PM7:30 開演 PM8:00 ¥3,000 ~ (1DRINK 付)



9月1日 (金) 酒井俊×内橋和久
 酒井俊 (vo) 内橋和久 (G,Effect) ゲスト: 林栄一 (As)
 外山明 (Ds)

■ケイ赤城 TRIO 2DAYS ■ ¥4,000

9月2日 (土) ケイ赤城 (P) 杉本智和 (B) 本田珠也 (Ds)
 9月3日 (日) ケイ赤城 (P) 杉本智和 (B) 本田珠也 (Ds)
 9月4日 (月) Don Friedman Solo Piano 前売 ¥4,000 当日 ¥4,500
 ドン・フリードマン (P) ゲスト: 原朋直 (Tp)
 ◎新宿ピットインにて、8/1 よりチケット (予約可) 前売り開始。

9月5日 (火) 勝井・鬼怒・サム
 勝井祐二 (Vn) 鬼怒無月 (G) サム・ベネット (Per)

9月6日 (水) 角田健一 BIG BAND 開場 19:00 開演 19:30 ¥4,000
 角田健一 (Tb,作,編曲) 田中哲也,高瀬龍一,宮本やすし
 依田武之 (Tp),今尾敏道,白石幸司,川村裕司,河村英樹
 丹羽康雄 (Sax), 中路英明,橋本佳明,高橋英樹 (Tb) 井上祐一 (P)
 古西忠哲 (B), 小山太郎 (Ds)

9月7日 (木) 中村達也 カルテット
 中村達也 (Ds) 清水未寿 (Ts) テリー上野 (P) 原田和光 (B)

■森山威男 2DAYS ■ ¥4,000

9月8日 (金) クインテット+1
 森山威男 (Ds) 音川英二 (Ts)
 佐藤芳明 (Acc) 田中直正 (P)
 望月英明 (B)
 ゲスト: 井上淑彦 (Ss,Ts)



森山威男

9月9日 (土) デンテット
 森山威男 (Ds) 音川英二 (Ts) 井上淑彦 (Ss,Ts) 高瀬龍一 (Tp)
 中路英明 (Tb)
 渡辺ファイアー (As) 田中邦和 (Bs) 佐藤芳明 (Acc) 田中直正 (P)
 望月英明 (B)

■沖至 2DAYS ■ ¥3,500

9月10日 (日) 沖至 UNIT
 沖至 (Tp,Flhetc) 田村夏樹 (Tp)
 登敬三 (Ts) 藤井郷子 (P)
 船戸博史 (B) 光田 臣 (Ds)

9月11日 (月)
 大友良英 プロデュース 沖至 DUO&QUARTET
 沖至 (Tp,Flhetc) 大友良英 (G,etc) 半野田拓 (G,etc)
 菊地成孔 (Sax) 山下洋輔 (P)
 外山明 (Ds,Per)

9月12日 (火) 宮下博行 TRIO
 宮下博行 (P) 佐藤有介 (B) 嘉本信一郎 (Ds)

9月13日 (水) ラクダカルテット
 水上聡 (Key) 林栄一,佐藤帆 (Sax) 類家心平 (Tp) 水谷浩章 (B)
 外山明 (Ds) 向山テツ (Ds) 中村敦 (Vo)

9月14日 (木) 辛島文雄 カルテット ナイト
 辛島文雄 (P) 原 朋直 (Tp) 生沼邦夫 (B) 小松伸之 (Ds)

9月15日 (金) 西尾健一 GROUP
 西尾健一 (Tp) 板垣光弘 (P) 吉木稔 (B) 齊藤良 (Ds)
 板谷亮志 (Per)

9月16日 (土) KAO'S! Night 七福神
 高橋香織 (Vn) 仙波清彦 (Per) 久米大作 (Key) 渡辺 等 (B)
 天田透 (Bass-fl,古代笛)
 ゲスト: 安曇野めぐ留 (Vo)

9月17日 (日) 平井庸一 GROUP
 平井庸一 (G) 増田ひろみ (As)
 都築猛 (P) 蛭子健太郎 (B)
 竹下宗男 (Ds)

9月18日 (月) 五十嵐一生 カルテット
 五十嵐一生 (Tp) 吉澤はじめ (P) 荒巻茂生 (B) 本田珠也 (Ds)

9月19日 (火) チコ本田 GROUP
 チコ本田 (Vo) 竹内直 (Sax) 吉田桂一 (P) 荒巻茂生 (B)
 江藤良人 (Ds)

9月20日 (水) 渋谷毅オーケストラ ¥3,500
 渋谷毅 (P) 峰厚介 (Ts) 松風鮎一 (SaxFl) 林栄一 (As)
 津上研太 (Sax) 青木タイセイ (Tb) 石渡明廣 (G) 上村勝正 (B)
 古澤良治郎 (Ds)

9月21日 (木) Tipó CABEZA ¥4,000

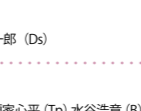
佐藤允彦 (P)
 加藤真一 (B)
 岡部洋一 (Per)



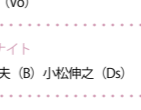
沖至



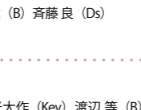
大友良英



宮下博行



辛島文雄



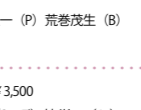
西尾健一



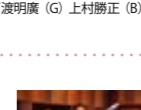
平井庸一



五十嵐一生



チコ本田



渋谷毅



Tipó CABEZA

SHINJUKU PIT INN

〒160-0022
 2-12-4 ACCORD BLDG. B1
 Shinjuku shinjuku-ku Tokyo JAPAN
 ☎ 03-3354-2024
<http://www.pit-inn.com>

9月22日 (金) 清水くるみ カルテット
 清水くるみ (P) 是安則克 (B) 本田珠也 (Ds) ゲスト: 峰厚介 (Ts)
 ■ 菊地成孔 3DAYS ■ 前売 ¥4,000 当日 ¥4,500

9月23日 (土) デュオ with 南博
 菊地成孔 (Sax) 南博 (P)

9月24日 (日) クインテットライブ・ダブ
 菊地成孔 (Sax,Vo) 坪口昌恭 (P)
 菊地雅晃 (B) 藤井信雄 (Ds)
 バードン木村 (ライブ・ダブ) ゲスト: 万波麻希 (Vo)

9月25日 (月) デュオ with 山下洋輔
 菊地成孔 (Sax) 山下洋輔 (P)
 ◎チケットぴあ、新宿ピットインにて 8/5 より前売り開始。

9月26日 (火) アラマキバンド+1
 荒巻茂生 (B) 竹内直 (Ts, B-d) 吉田桂一 (P) 本田珠也 (Ds)
 ゲスト: 峰厚介 (Ts)

9月27日 (水) 一噌幸弘「しらせ」

一噌幸弘 (笛,その他)
 壺井彰久 (Vn)
 吉見征樹 (Tabla)
 茂戸藤浩司 (太鼓)

9月28日 (木) モヒカーノ 関 & ラテンジャズ 8 重奏団
 『Saltamos!』CD 発売記念
 モヒカーノ 関 (P) 藤田明夫 (As) 鈴木雅之 (Ts) 中路英明 (Tb)
 高橋ケタ夫 (B)
 平川象士 (Ds) 今福健司、ミザリート (Per)

9月29日 (金) HASHIMOTO Ichiko ub-x
 橋本一子 ub-x (P,Vo) 井野信義 (B) 藤本敦夫 (Ds)

9月30日 (土) ジョージ大塚 カルテット
 ジョージ大塚 (Ds) 山口真文 (Ts) 辛島文雄 (P) 古野光昭 (B)



THERE'S A LOT OF THINGS THAT GIVE YOU THE BLUES.



◎ASA-CHANG & 巡礼『花』(IDCH-1002)...

読むにせよ、聴くにしる、観るにつけてももはや、余程のものでない限りは“驚くじぶん”を自覚するコトはないだろう。と半ば諦めつつもそのじつ、齢を重ねれば重ねるほど「驚きたい!」といふ渴望感が増してきて、ややじぶんを持って余し気味の昨今ではあるけれども狭いようで広いこの世の中、各方面で話題を呼びながらもなぜかじぶんの周囲では見過ごされてきた衝撃作品といふものが稀に存在しており、この『花』といふアルバムが(といふよりも個人的には冒頭の表題作<花>の衝撃度が強すぎて未だに他の収録曲を聴けてないけれども…)その“もしかしたら生涯聴かず終いだっただかもしれない”仰天の一枚なわけで現在、「誰も聴いたコトがない音楽」部門のわがNo.1なのである。

□塩山芳明著『出版業界最底辺日記』(ちくま文庫)...

が、じぶんだけが(といふわけではもちろんないけれども)知らなかった衝撃作品といふ意味では、この新刊文庫の親本『嫌われ者の記 エロ漫画業界凶悪編集者血闘ファイル』(一水社から1996年刊)なんかも、今回の南陀楼綾繁【編】によるリミックス版で著者の存在とその読書量の凄さやB級映画への偏愛ぶりを知って大いに仰天し、草葉の陰での後悔を免れた一冊である。今風なSM誌の取材を受けた某日、嫌われ者はこう記す。<「な〜んだ!」。シーツの匂いを発しないエロ本は、どの分野でも退屈。(ド田舎生まれの低能なエロ本編集者が、こーゆレイアウトに凝った本を編集したがる気持ちはわかるが)と…随所で爆笑、苦笑、感心、納得、肯首、賛同できる濃密な一冊。本誌への連載を頼みたい!



■ウイット・ボンニット作品集『タムくんアニメ』(アップリンク)...



そうそう読書といえは先日、ひさしぶりに帰宅して娘(小6)と話していたら「よしもばななの初期作品を何冊か読んだヨ」とか何気んでいうから正直驚いた。その前は芥川龍之介だったが…ばなな本は未読である父親が12歳少女の読後感についてゆけるわけもないが(笑)、そのばななが『なんくるない』の表紙にも起用し、彼のコミック本の推薦帯まで綴るほど敬愛しているのが在日タイ人のマルチアーティスト、ウイット・ボンニット。その画風は掲載写真の如くだが、自ら弾くソロピアノの調べに乗せて展開される短編アニメの数々はいずれもローファイでありながら深遠。『タムくんアニメ』は8月26日~9月8日まで東京・アップリンクXで劇場公開されるといふからは非、娘を連れていこう。

□DVD『トム・ダウド / いとしのレイラをミックスした男』(アップリンク)...

一方、かつては吹奏楽を嗜んだが、中学では卓球に転じた次男はといえは夏休み直前に突然、「B'zの松本みたいに弾けるようになりたい!」とエレキ購入宣言を。「本気で続けるからそれなりの値段の機種を選んで。自分の小遣いで全額出すから」と殊勝な申し出をするから後日、新宿の楽器店に同行してやった。今夏は愉しくももどかしい指特訓の歳月だが、彼の問題点は「リフの定番」もロクに知らず「弾きたい」一心が先行しているコト。そのぶん課題には従順だし吸収欲は旺盛だから、まずは9月15日にDVDセル&レンタルが同時リリースされる本作でも観せながら「耳の良さ」と同時に“音楽愛”の大切さを吹き込んでやろうかと思う。そんな少年から山下達郎までを魅了してやまない一作!



△音楽 ON フィルム『真夏の夜のジャズ』(ミュージック・エア)...



身近に何かを吸収しようと燃えている人間がいると(たとえそれがわが子でも)妙に影響が出るといふか、学習効果が生まれるものでじぶんはじぶんなりに「原点を見つめなおしてみようか」と思ったりするから面白い。要は音楽欲の再燃といふか、もう一度“知ってるつもり”のジャズ史観を再考してみようかとも思うわけだが、手取り早いのは映像体験。で、“大人の音楽専門TV”ミュージック・エアのサイト(<http://www.musicair.co.jp>)を覗いてみたら、「祝マイルス・デイヴィス&ジョン・コルトレーン生誕80周年:真夏の夜のジャズ特集」の文字が躍っており、今夏はかなりの数のジャズ・ドキュメンタリーがONされたい。ん!? 9月10日には『真夏の夜のジャズ』まで…この際、契約を考えるか?

◎個人的には「フェリーニ現象」再燃!!

きっかけは『サテリコン』に次いで『フェリーニのローマ』が廉価版DVDで発売されたコトと、(ようやくVHS→DVDが気軽に出来るVIDEO RECORDERを購入し)VHSを整理していたら過去に録画したフェリーニ特集の何作品が出てきて再鑑賞したコトが大きい。で、彼自身のドキュメンタリーもDVD化されているのは知っているけれども、そこはやはり本読みの習性でフェリーニ本を探しに出たら、(予想していたコトとはいえ)映画書籍がかなり充実している店でも(といふか「だからこそ」と書くべきか)現在は“ゴダール優勢”といふか“ゴダール一人勝ち”の陳列ぶりで元来、関連書籍が多いのだから占有率は納得できるものなんだかなあ…じぶんとしてはフェリーニ再評価、近い気もするのだが。

